

令和5年度農林水産総合センター農業研究所の現況及び今後の方針

1. 運営方針及び重点分野

本県は中四国一の農業県であり、生産される農産物は長年の先進技術の開発によって品質の良さが高く評価されている。しかし、ブランドの確立は一部の品目に留まっており、生産性の向上や儲かる力強い経営体の育成、消費者・実需者ニーズに対応した農産物の供給力強化などが喫緊の課題となっている。このような中、平成26年3月に策定された「晴れの国おかやま生き活きプラン」の中に戦略プログラムとして「攻めの農林水産業育成プログラム」が盛り込まれ、平成28年度に改訂された「新晴れの国おかやま生き活きプラン」、令和3年3月に改訂された「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」においても概ね継承されている。さらに、平成31年に改訂された「21おかやま農林水産プラン」では、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指し、「マーケティングの強化とブランディングの推進」、「次代を担う力強い担い手の確保・育成」、「農林水産業を支える施策」を3本柱として施策を展開しており、特に「マーケティングの強化とブランディングの推進」では、商品価値をさらに高めてブランド化を推進するため、新品種育成や新技術等の開発をさらに加速化することが求められている。

農業研究所ではこれらの農業施策にそって研究と業務を展開・運営することとし、次の目指すべきビジョンを掲げる。

＜農業研究所の目指すべきビジョン＞

- 1) 儲かる産業としての農業の実現を目指し、「消費者・実需者ニーズに対応した高品質でブランド力の高い新品種の育成」と「高品質安定生産のための新技術の開発」を推進する。
- 2) 安定した農業生産を支える質の高い技術支援を実施する。（優良種苗の供給、病虫害の発生予察等、病虫害・生理障害の診断と対策等の試験研究関連事業への取り組み）
- 3) 出口を見据えた技術開発集団として地域に貢献し、信頼される研究所を目指す。

研究課題の設定に当たっては、県内農業発展への寄与を前提に出口を明確にして課題に取り組み、基本的には「岡山県農林水産技術連絡会議」において精査した現場からの試験研究要望課題を最重点とする。また、国や大学、企業との共同研究や各種受託研究については上記の前提条件に照らしてその実施を検討する。更に、それらとは別に、将来の新技術開発に繋がる独自のシーズ研究に取り組む。試験課題の実施に当たり、出口を見据えた明確な技術開発目標を掲げるため、各課題の核となる技術視点を以下の重点分野に分類整理して取り組んでいる。

【重点分野】

- ① ブランド力の強化（新品種育成・高付加価値化）
- ② 生産性の向上（省エネ・省力・低コスト化）
- ③ 環境との調和と気象変動への対応（環境負荷低減対策・温暖化対応技術）
- ④ 新しいニーズへの対応

また、優良種苗の供給、病虫害の発生予察等、安定した農業生産のための各種試験研究関連事業や病虫害・生理障害の診断と対策等、生産者や関係機関への技術支援も引き続き実施する。

今後とも、効率的、効果的な新技術・新品種の開発に取り組み、得られた研究成果は農林水産総合センター普及連携部や農業普及指導センター等と連携して積極的に知的財産化するとともに、迅速な普及に努めていく。

重点分野別の主な研究課題(抜粋)

①ブランド力の強化	・「アケボノ」の品種改良 ・モモ、ブドウの新品種育成 ・「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成 ・岡山県の気候に適したリンドウの新品種の育成
②生産性の向上	・極良食味水稻「きぬむすめ」のスマート農業による安定多収技術の確立 ・D Xを活用した水田転換園における果樹の省力・安定栽培技術の開発 ・「晴苺」の連続安定出荷のための栽培技術の開発
③環境との調和と 気象変動への対応	・環境に配慮した新しい水田施肥体系の確立 ・主要病害虫の薬剤感受性の発生実態の解明と有効薬剤の選抜 ・ブドウ栽培におけるアザミウマ類の総合除体系の確立 ・岡山県における高温耐性品種の選定基準の作成と気候変動に対応した水稻品種の選定 ・冷房処理を活用したスイートピーの着花安定化技術の確立 ・夏秋雨除けトマト栽培における安定生産技術の開発
④新しいニーズへの対応	・米価低迷下における高収益水田作営農モデルの確立 ・果樹栽培の省力・高品質安定生産を可能にする スマート栽培管理支援システムの開発

2. 組織体制及び人員配置並びに予算配分

(1) 組織体制と事務分掌

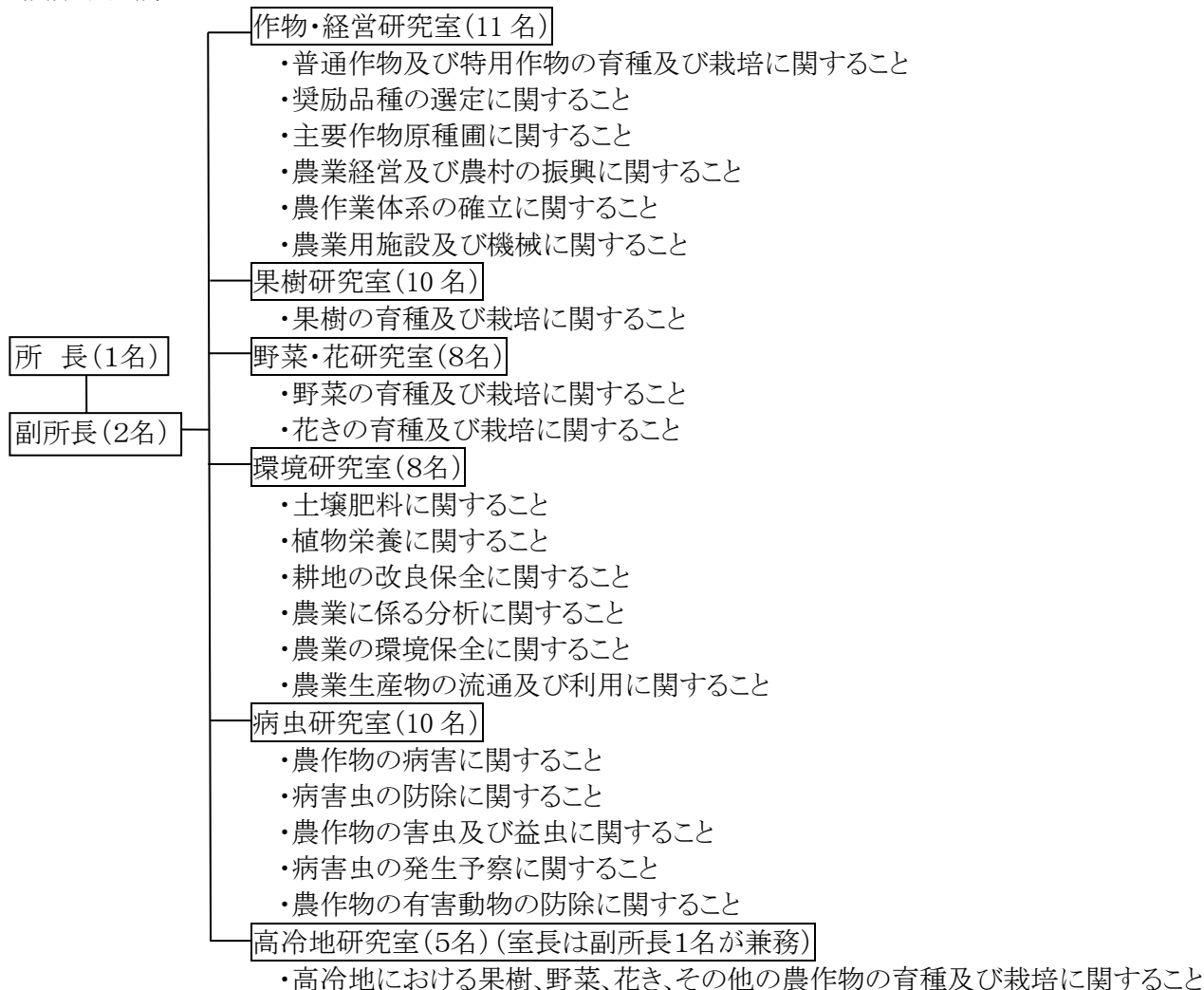
本県の財政状況を踏まえて策定された「行財政構造改革大綱 2008」に基づき、平成 22 年 4 月に農林水産関係研究機関等を統合して岡山県農林水産総合センターが発足し、現在、農業研究所は赤磐市の 5 研究室と真庭市の 1 研究室の、計 6 研究室体制で試験研究を実施している。また、農林水産総合センターに病虫害防除所が併置されており、試験研究と一体的に業務に当たっている。

職員数は 3 次に渡る行財政改革によって減少しており、特に平成 24 年度末で農業技術職（現業職）が廃止となり、農業技術職員が担当していた業務は、平成 25～28 年度には農業技術職から行政職への転任職員 6 名に加え、非常勤職員 4 名（1 年契約）及び外部委託で対応することとした。その後、令和 2 年度までには、転任職員 6 名のうち、5 名が退職となり、令和 5 年度には、転任職員 1 名と再任用職員（短期）2 名、非常勤職員（会計年度任用職員）6 名の計 9 名及び外部委託で対応している。

なお、正規職員数は平成 23 年度の 70 名（研究職 55 名、技術職 15 名）、平成 26 年度の 56 名（研究職 50 名、行政職 6 名）に対して、平成 29 年度は 54 名（研究職 51 名、行政職 3 名）、令和 2 年度以降は 54 名（研究職 53 名で内 1 名は産学連携推進課兼務、行政職 1 名）となっている。

農業研究所の組織図と事務分掌（令和 5 年度）

○農業研究所



○病虫害防除所(農林水産総合センター併置)

所長(農業研究所長兼務) — 所員(病虫害研究室兼務)

- ・病害虫の発生予察事業
- ・防除に対する指導及び協力、その他病害虫の防除に関すること他

（２）予算配分

農業研究所の人件費を除く令和５年度当初の研究予算は、試験研究や各種事業を行う研究費が 75,337 千円、施設や備品の整備に用いる施設・備品整備費が 35,362 千円、施設や圃場の維持管理に必要な運営費が 102,495 千円、総額 213,194 千円で、県の財政状況により一般財源（県費）が年々縮小傾向ではあるが、農業研究所単独での予算は概ね横這い状態を維持している。これは、各種受託事業、農林水産部の新規重点課題（一般財源）、普及連携部の「農林水産総合センター連携事業促進費」など、各種研究課題を積極的に獲得していることによる。その結果、農業研究所研究費（施設整備費除く）に占める一般財源は 41%と半分以下であり、国庫が 11%、各種団体などからの受託費や農業研究所で収穫した農作物を販売した財産収入が 48%となっている。人件費は 452,241 千円（令和４年実績）で、令和元年度以降ほぼ横這い状態である。

農業研究所研究費の内、外部資金の導入状況は、農研機構などの国関連の研究や事業が 6 件 6,139 千円、民間受託研究等が 5 件 6,891 千円、特別電源科学技術振興補助金の備品整備費が 30,567 千円で、総額 43,597 千円（研究費総額の 39%）となっており、特別電源所在県科学技術振興事業補助金は県費での購入が困難な高機能・高精密備品の整備に活用している。

今後とも限られた財源を有効に活用すべく、試験研究課題の選択と集中を一層進めて更なる重点化を図ると共に業務の効率化を図り、外部資金の獲得にも積極的に取り組んでいく。

令和５年度研究当初予算配分(除人件費、千円)

分類	事項名	金額 (千円)	財源内訳			研究対象数		備考
			国庫	その他	一般財源	課題数	事業数	
研究費	農業研究所研究費 (施設・備品整備費除く)	56,670	737	29,633	26,300	31	8	各種研究費 各種事業費など
	農総セ連携事業促進費	5,497		5,497		6		スマート農業プロジェクト 気候変動への対応課題
	農産課予算	12,818	7,069	800	4,949	7	2	発生予察事業など
	科研費	352	352			1		京大主査
	小計	75,337	8,158	35,930	31,249	45	10	
	農業研究所研究費 施設・備品整備費	35,362	30,567	4,048	747			文部科学省特別電源科学技術振興補助金など
	研究費計	110,699	38,725	39,978	31,996	45	10	
運営費	農総セ運営費 (現業業務見直し経費 農業研究所分)	59,907						業務委託に係る経費 会計年度任用職員経費
	農業研究所運営費	42,588				1		ほ場管理費 実験農場運営費など
	運営費計	102,495				1		
総計		213,194				46	10	

（３）試験研究事業一覧（資料１、２）

令和５年度当初に実施予定の試験研究及び事業は、試験研究が４６課題、試験研究関連事業が１０課題である。この内、外部評価の対象課題は、外部資金課題、別途審査で採択された課題、品種育成などの継続課題及び関連事業を除き、２１課題となっている。

これらの対象課題は、毎年、農業普及指導センターや県庁内農林水産関係部署、県内農業関係団体のほか、広く県民から募集した試験研究要望課題について、岡山県農林水産技術連絡会議農業部会（県庁内部組織）で内容を検討し、新たに試験研究の実施が必要と判断された課題について、外部評価委員会の評価を受けた後、予算化している。なお、平成２６年度から試験研究要望課題を広く県民から募集している。

試験研究課題の分類（令和５年度）

分 類	形 態	研究課題	関連事業	外部評価対象
農研単独課題	予算化	23	6	15
外部資金(国・独法関連)	応募等	4	2	0
外部資金(民間受託)	受託	5	0	0
外部資金(科研費)	応募	1	0	0
普及連携部事業	応募等	6	0	4
県庁農産課事業	令達	7	2	2
計		46	10	21

３．施設・設備等（資料３）

当研究所の本所（赤磐市）は、敷地面積 43.8ha（内、試験圃場 25.5ha）に 52 棟の施設（内、温室 23 棟）を備えている。また、高冷地研究室（真庭市蒜山）は敷地面積 4.1ha（同 1.7ha）に 5 棟の施設を備えている。本所は昭和 43 年に現在地に移転してから 55 年が経過しており、また、高冷地研究室は平成 22 年に旧真庭普及指導センター実証班を改組したもので、いずれも施設は老朽化が進んでおり、修繕や整備に要する費用が年々増加している。なお、センター本館の耐震化については、岡山県公共施設マネジメント方針に則り、平成 29 年度に個別施設計画を策定し、令和元年度に耐震工事を完了した。高冷地研究室は令和 2 年度に個別施設計画を策定し、令和 4 年度に耐震工事を完了した。

備品については栽培関連の圃場管理機械の更新に努めると共に、調査分析機器については近年の高性能化に合わせて新規購入や更新に努めている。しかし、厳しい財政状況の下、備品整備にかかる一般財源は急激に減少しており、県費での購入が困難な高機能・高精密備品の整備には文部科学省の「特別電源所在県科学技術振興事業補助金」を積極的に活用している。これにより、最近ではスマート農業に関する研究のため、無人で走行可能なロボットトラクタ、収量食味コンバイン、ドローンリモートセンシング装置等を重点的に整備している。

土地利用概要

１ 本所(赤磐市)

区分		面積(ha)
試験圃場	水田作圃場	13.3
	畑作圃場	1.5
	果樹圃場	8.2
	野菜花圃場	2.5
	計	25.5
建物その他		18.3
総 計		43.8

２ 高冷地研究室(真庭市)

区分		面積(ha)
試験圃場	果樹圃場	0.1
	野菜花圃場	1.6
	計	1.7
建物その他		2.4
総 計		4.1

4. 研究成果（過去3年間）

（1）試験研究主要成果（資料4）

試験研究で得られた成果のうち、新技術として直ちに利用できる成果を「技術」、課題解決の一部として活用できる成果を「情報」として分類し、岡山県農林水産技術連絡会議農業部会（前出）で内容を検討した後、「試験研究主要成果」として毎年公表している。過去3年間の成果は果樹が46（技術16、情報30）と最も多く、次いで野菜29（技術9、情報20）、水田11（技術1、情報10）、旗・転換畑作11（技術2、情報9）と続き、総計は108（技術31、情報77）に上る（平成29～令和元年度の87に対して124%）。これらは、ホームページで公表するとともに、農業普及指導センター等の指導機関と連携し、生産現場への迅速な普及に努めている。また、新技術を一般県民に広く伝えるために、ホームページ内に主要成果をより分かりやすくまとめた「主な新技術の紹介」コーナーも設置している。

試験研究主要成果(R2～R4)

年度	区分	共通	水田	畑・転換畑	果樹	野菜	花き	農業経営	年計	
R2	技術	0	0	0	4	1	0	0	5	26
	情報	1	2	2	8	7	1	0	21	
R3	技術	0	1	1	4	7	1	0	14	37
	情報	1	5	0	10	7	0	0	23	
R4	技術	0	0	1	8	1	2	0	12	45
	情報	1	3	7	12	6	1	3	33	
計	技術	0	1	2	16	9	3	0	31	
	情報	3	10	9	30	20	2	3	77	
	総計	3	11	11	46	29	5	3	108	

注：「技術」は直ちに普及に移し得る技術。「情報」は課題解決の一部として活用できる成果

（2）特許等知的財産権の取得・活用状況（資料5）

農業研究所で開発した新品種や新技術は知的財産センターと連携して積極的に知的財産化を進めており、過去3年間では新品種の登録が3件・出願が3件となっている。これらを含め、知的財産権等は積極的に現場PRに努めており、特に新品種については利用許諾等を通じて現場への普及と産地化を推進し、令和5年度現在、14品種が約240haで栽培されている。また、新品種については、ブランディングを推進するため商標権の取得にも取り組んでおり、モモ4品種、ブドウ1品種、ナシ1品種、小豆1品種について、日本、中国、台湾、香港、シンガポール、マレーシアで、延べ22件（国内4件、海外18件）の商標権を取得し、2件をタイに出願中である。

（3）成果の技術移転や普及の取り組み状況

1）新技術の普及（資料6）

試験研究で得られた新技術や新品種等の情報は、「試験研究主要成果」を中心に農業普及指導センターや関係機関と連携して現場への迅速な普及に努めており、特に重要な成果は「普及推進新技術」として重点的に推進している。その結果、これまでに開発した主な新技術26件の令和元年度の総普及面積は1,971ha、実施農家数はのべ1,627戸に上っている。

2）各種刊行物、論文、学会・研究会発表など（資料7、8、9）

各種刊行物（試験研究主要成果、農業研究所研究報告、農業研究所研究年報、等）を毎年発行し、ホームページで公開するとともに、農家及び農業指導者向けの技術情報誌等に研究成果の解説記事等を掲載している（3年間で99件）。さらに、「試験研究主要成果」を学術的な見地から検証するため、得られた知見を各種学会等に論文発表するとともに（同30件）、各種学会発表や学術研究会講演を行い（同69件）、各方面からの意見を試験研究にフィードバックしている。

研究成果の解説指導記事掲載や学術発表の件数

年度	解説・指導記事※	研究論文・著書等	学会・研究会発表
R 2	39	9	16
R 3	31	9	22
R 4	31	12	31
総計	101	30	69

※解説指導記事には一般技術指導を含む

5. 技術相談・指導、普及業務、依頼試験、情報提供等所掌業務の実施状況（過去3年間）

（1）技術相談・指導

農家から普及指導センターなどに持ち込まれたが、説明困難であった病虫害や生理障害等について、令和2～4年度の3年間で606件の診断を行い、原因を確定したものについては対策を指導した。また、農家などからの電話などによる技術的相談は3年間で1,466件に対応した（HPへの問合せ対応を含む）。

診断及び技術相談の件数

年度	診断依頼	技術相談
R 2	233	404
R 3	195	494
R 4	178	568
総計	606	1,466

（2）普及業務（資料10）

試験研究に係る普及業務として、基本的に農業普及指導センター等と連携しながら以下のような様々な対応を行っている。これらには令和2～4年度の3年間で119件、延べ388人の職員が当たっている。

- ・農家が組織する現場研究会、研修会における技術的指導などの対応（含、現場研修や視察）
- ・農業普及指導センターやJA等の指導機関会議における講師や技術的助言
- ・各種行政会議における専門的な立場からの技術的助言や講演
- ・県内各種農業団体の依頼による各種会議、審議会、損害評価等における技術的助言
- ・各種共進会や品評会における審査（もも、ぶどう、トマト、なす、アスパラガス、花き、茶等）
- ・農薬安全指導員などの公的な資格認定における講師
- ・農業大学校における講義（R4、年間のべ31回、93時間）

（3）依頼試験等

岡山県の主要農作物の農薬登録に必要な審査資料を得たり、国や民間育成品種の選抜資料を得るため、3年間で農薬試験（殺虫・殺菌剤、除草剤、植物調節剤）は132件、品種試験（水稻、麦類、モモ、ブドウ、イチゴ、ダイコン等）は延べ145品種について実施した。これらは、前出のように外部資金の受託研究課題と位置づけて予算化している（p. 4～5 予算配分と試験研究事業一覧参照）。

- ・農薬登録試験等：殺虫殺菌剤、除草剤、植物調節剤の効果と薬害、残留分析試験
- ・品種選抜試験：岡山県特産農作物の国・民間育成品種の選抜試験

依頼試験の件数

年度	殺虫・殺菌剤	除草剤	植物調節剤	品種選抜
R 2	36	8	2	48
R 3	30	9	3	55
R 4	37	6	1	42
総計	103	23	6	145

(4) 情報提供

前出のように、試験研究主要成果の発信、技術相談、各種普及業務の対応など、求めに応じて各種情報提供を実施している。また、病虫害防除所の予察情報等についても逐次提供しており、これらの多くはホームページでも公開している。

(p. 7 技術相談・指導、普及業務、p. 8 県民地域への貢献、情報発信の項参照)

6. 人材育成 (資料 11)

地方公共団体に属する試験研究機関の職員として、「試験研究の推進」、「現場指導の援助」、「行政対応の技術支援」の三位一体が求められており、これらに対応するための人材育成に努めている。特に、「試験研究の推進」については、各種学会への出席を奨励するとともに、農林水産省等主催の研究会や研修等に職員を派遣（リモート含む）し、また、職場内では試験研究打合せ会議、論文記述や学会発表などの機会を捉えて人材育成に取り組んでいる。一方、「現場指導の援助」や「行政対応の技術支援」に関しては、現場研究会や各種行政会議への積極的な参加や、県主催の職員研修などの受講を奨励しているが、令和2年度はコロナ禍により参加が特に落ち込んだ。さらに、農業機械の安全使用研修等を開催し、栽培技術の継承にも努めている。

これらの結果、令和2～4年度の3年間で各種学術研究に対して3件の外部受賞・表彰を受けると共に、4件の職員表彰を受けている。なお、令和4年4月に改訂した「試験研究推進構想」で人材育成方針を明記するとともに「岡山農研人材育成指針」を策定し、本県農業技術をリードする能力と資質を備えた人材を育成することとしている。

人材育成における各種研修参加者(延べ人数)

年度	学会	研究会	外部研修会	内部研修会
R 2	17	1	24	71
R 3	14	76	38	190
R 4	21	35	21	306
総計	52	112	111	567

7. 他機関との連携 (資料 12)

近年の試験研究領域の広域化や専門化に伴い、異分野を含めた多くの研究機関や大学または民間団体との交流や連携を推進しており、特に農林水産総合センター内の5研究機関や国関連機関との共同研究を積極的に実施している。また、岡山県産学官包括連携協定（岡山大学、岡山県農業協同組合中央会、岡山県の三者）に基づく共同研究や共同研修会の実施、民間企業との共同研究にも参画しており、これらの結果、現在、実施している共同研究は17課題（令和5年度）に上る。

8. 県民・地域への貢献

(1) 県民・地域への貢献状況

県民や地域に広く開かれた農業研究所を目指し、以下のような活動を実施している。

- ・県民や関係団体の各種視察の受け入れ（3年間で87件、1,672名）（資料13）
- ・地元中学校の職場体験への協力・受け入れ
- ・県内高校生に試験研究出前講座を開催（毎年数講座提案）
- ・地元大学生のインターンシップの受け入れ（毎年数名募集、令和4年度実績4名）
- ・令和3年度からは県内の小・中・高校生を対象に、普及連携部と連携し「農林水産総合センター夏の体験教室」を開催している。

(2) 情報発信

1) 報道での情報発信 (資料 14)

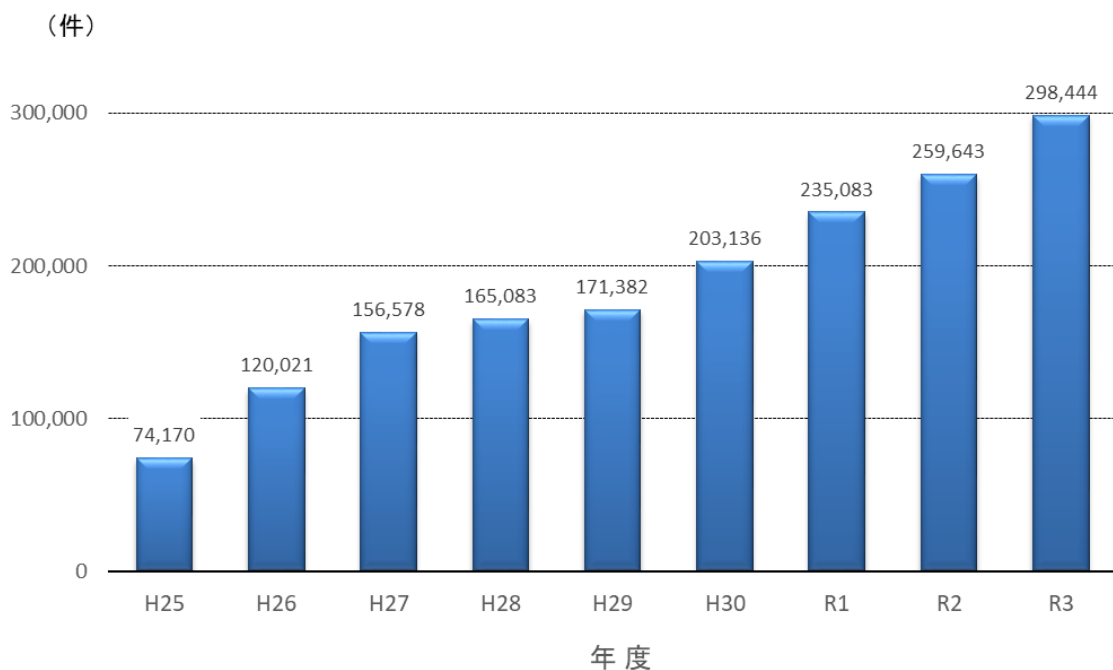
研究所の概要や試験研究成果等を広く県民にお知らせするため、報道機関の取材を積極的に受けると共に、新聞の技術情報欄などへの執筆を行っている。この結果、令和2～4年度の3年間で新聞報道は83件、テレビやラジオでの放送は10件配信された。

2) ホームページでの情報発信（資料 15）

農業研究所からの情報発信は、基本的媒体としてホームページの活用に重点を置いている。ホームページには、試験研究成果や研究論文等の専門知見の公表は元より、広く県民に広報するため、研究成果をわかりやすく解説した「主な新技術の紹介」や視察状況等を紹介する「視察・研修会の報告」、また「農研トピックス」としてタイムリーな試験や栽培管理の状況、映像を紹介する欄を設けている。これらの改善の結果、令和3年度のアクセス数は約30万件で、5年前（平成28年度）の約1.8倍、3年前（平成30年度）の約1.5倍と増加している。

ただし、令和4年度以降は県全体のセキュリティの都合上、これまで通りのアクセス数集計が出来なくなったため、データは欠損するものの、情報発信には引き続き取り組んでいる。

農業研究所のHPアクセス数



3) 展示イベント出展

農業研究所が育成した新品種や開発した新技術等について、産学連携推進課と協力して、アグリビジネス創出フェア（東京都）に出展し、県内外にPRを行った。

9. 前回指摘事項への対応

(1) 運営方針及び重点分野

<指摘事項>

1. 「21 おかやま農林水産プラン」に基づいて、儲かる産業としての農林水産業の確立のために、農業研究所として目指すべき明確な3つのビジョンを策定し、特に「ブランディングの推進」のため、新品種育成や新技術等の開発に取り組んでおり、運営方針は適切である。
2. 研究課題の設定に当たっては、技術開発の重点分野として、①ブランド力の強化②生産性の向上③環境との調和と気象変動への対応④新しいニーズへの対応の4つの分野に分類整理して取り組まれており、高く評価できる。

<対応状況>

- ・農業研究所では、平成31年に改訂された「21 おかやま農林水産プラン」、令和3年3月に改訂された「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」に基づき、令和4年4月に「試験研究推進構想」を改訂し、限られた人員と予算の中で研究目的を明確にし、公設研究機関として「地域への貢献」を念頭に業務を推進している。

(2) 組織体制、及び人員配置並びに予算配分

<指摘事項>

1. 総職員数が十分多いと言えない中、効率的に業務を進めるよう職員を適切に配置している。
2. 選択と集中により、効率的に予算配分を行っており、外部資金も積極的に獲得している点が評価できる。
3. 今後とも効率的かつ効果的な試験研究を行うとともに、優良種苗の供給や生産者、関係機関への技術支援を継続するため、人員確保と予算確保に努めて欲しい。
4. 単独で解決が難しい課題、他県と共通する課題については、関係機関、他県と連携した競争的資金獲得に取り組んでいただきたい。

<対応状況>

- ・問題解決に領域横断的な技術が必要な場合には、研究室間や研究所間、さらには他機関との共同研究を積極的に行っている。また、今後とも外部資金を積極的に獲得し、適正な予算配分と人員配置に努め、各種試験研究成果に結びつけていきたい。

(3) 施設・設備など

<指摘事項>

1. 効率的かつ効果的な試験研究を行うには、圃場管理機械や調査分析機器の新規購入・更新は、必須条件であるため、積極的に進めるべきである。
2. 文部科学省の補助事業を活用して、高機能・高精密備品の整備に努めていることは評価できる。
3. 施設の老朽化対策については、早急な検討が必要と思われる。
4. スマート農業、IT活用という政策推進がなされており、農業研究所においても、現場の取組に遅れることのないように願う。

<対応状況>

- ・施設整備に関しては、厳しい財政状況の下、県庁主務課、センター総務課と協議しながら、試験研究に支障が生じないよう修理や更新に努めている。特に備品に関しては、特別電源科学技術振興補助金を活用するなど、研究に必要な高精度な分析機器や計測機器等を整備している。中でもここ数年は、生育診断用ドローン、ロボットトラクタ、収量コンバイン、直進アシスト機能付き田植え機など、スマート農業の研究に不可欠な備品の整備を積極的に行っている。
- ・農業研究所本館の耐震化工事は令和元年度に、高冷地研究室の耐震化についても令和4年度に完了した。

(4) 研究成果

＜指摘事項＞

1. 多くの成果を「技術」と「情報」に分類して分かりやすくまとめ、積極的に「試験研究主要成果」としてホームページ等を活用して公表し、生産現場への迅速な普及に努めており、農家所得の向上への貢献度は高く評価できる。
2. 得られた知見を研究論文・学会発表として公表していることは評価できる。成果公表は重要なことであるので、さらに増やして欲しい。
3. 普及状況については、面積等の実数だけでなく、普及対象のどの程度の割合に普及したかという情報も示していただきたい。
4. 県民に成果をアピールするため、積極的に地元の新聞に掲載して欲しい。また、SNS等のメディア活用も有効であろう。

＜対応状況＞

- ・普及部門及び県の関係機関とは、毎年3月に当年度の試験研究主要成果候補の内容をプレゼン形式で検討後、5月の岡山県農林水産技術連絡会議農業部会で精査した後、農業研究所のホームページで公表するとともに、新聞、雑誌等に積極的に紹介している。また、普及指導員研修等で成果の内容を視察する機会も設けるなど、普及指導センターが遅滞なく研究成果を現地普及できるよう努めている。さらに、平成29年度からは、同農業部会の場で、これまでに得られた研究成果について、現場普及上の課題、各機関の役割分担、具体的な普及方法などを協議する場を設けて、成果の普及促進に努めている。今後は新たなメディアの活用を検討していく。
- ・研究成果の取りまとめや各種研究会、学会などでの発表を職員全体及び個別に勧奨するとともに、所内で論文執筆のための研修会を開催し、自己研鑽を促している。

(5) 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験、情報提供等の実施状況

＜指摘事項＞

1. 限られた人員配置、予算の中で、多くの技術相談、普及業務、依頼試験に対して、適切に対応している点は高く評価できる。
2. 農家から持ち込まれた診断及び技術相談対応では、農家等から頼りにされている。
3. 農協合併で合理化されていく中、営農指導員の配置が減ることが予想され、県として益々農家の要望に応える要望が高まるため、新技術や新品種の普及への貢献に期待する。

＜対応状況＞

- ・県民からの直接的な営農相談や栽培技術に関する問合せについては、県内9か所の普及指導センターが中心的役割を担っているが、必要に応じて連携し、農業研究所も回答への支援を行っている。また、岡山県ホームページでは、各課、各機関のサイトにおいて、問合せフォームを設けて、多様な問合せに即時対応するほか、適宜相談に対応している。なお、営農上問題となる農作物の生育障害の診断業務に関しては、現場で診断が難しいものについて、農林水産総合センター普及推進課を窓口として診断を行い、対応策を回答するシステムを構築している（年間約200件）。
- ・消費者・実需者ニーズに対応した高品質で作りやすい県独自品種の育成のほか、一層の高付加価値化、省エネ・省力・低コスト化、環境負荷低減や気候変動への対応など、多様化する新たなニーズに対応した新技術の開発を引き続き行っていく。

(6) 人材育成

＜指摘事項＞

1. 平成29年に策定した「農業研究所人材育成指針」により、人材育成が進められており高く評価できる。
2. 試験研究の成果を継続的に得るためには、人材育成が最も重要と思われるので、学会、研究会、研修会などに、積極的に職員の派遣を進めていただきたい。
3. 学会、外部研修会への参加が前年と比べて減少しているので、増加するよう努められたい。

4. 農業研究所と普及センターとの連携や研修等での技術交流についても、人材育成の視点で引き続き進めていただきたい。

＜対応状況＞

- ・農業研究所では、平成 29 年 4 月に定めた試験研究推進構想に基づく人材育成指針に則り、各種研修会や研究会への積極的な参加を推進している。また、農林水産省主催の各種研修等への積極的な派遣や人材育成に係る独自研修を実施し、中長期的な人材育成を図ることとしている。さらに、農業研究所内に人材育成のための研修担当職員を定め、特に若手職員の人材育成のための各種研修を企画、開催している。
- ・学会や各種研修会はコロナ禍において一時的に開催回数が減少したものの、最近はリモート開催が増え、開催地に関係なく以前よりも参加しやすい環境となっている面もある。今後ともこの機会を活かし、人材育成に努める。
- ・普及推進課が若手普及員を対象に行う専門技術研修に農業研究所の若手職員も受講できる体制を取っており、県内産地の現状や課題を学ぶこととしている。

（７）他機関との連携

＜指摘事項＞

1. 広く全国の研究機関と共同研究を進めているほか、岡山県産学官包括連携協定を結ぶなど、他機関との連携強化を図っており、評価できる。
2. 今後も人員、予算が厳しい状況は続くと思われるので、試験研究の成果を継続的に上げるため、引き続き、積極的に他機関との連携強化、共同研究を進めていただきたい。
3. 研究課題によっては、岡山大学以外の県内の大学との連携も重要であろう。

＜対応状況＞

- ・農林水産総合センター内の各研究所は元より、岡山県の研究機関で構成する岡山県立研究機関協議会において岡山県立大学等との積極的な連携を図っている。また、農研機構、他県の研究機関や大学との連携により一層努め、共同研究にも応募し、課題解決に向けて幅広い人材の活用、競争的資金の獲得につなげている。
- ・「岡山県スマート農業技術開発プラットフォーム」においては、「もの作り企業」や「大学」、「生産者団体（ＪＡ）」などと連携し、スマート農業機械などの開発や改良を通じて、生産現場の課題解決に取り組んでいる。
- ・産学連携推進課と協力して、アグリビジネス創出フェア（東京都）で共同研究を行いたい内容を紹介した。

（８）県民・地域への貢献

＜指摘事項＞

1. 県民・地域へ広く開かれた農業研究所を目指して、新聞、テレビ、ラジオ等を活用して情報発信に努めるとともに、ホームページを有効な媒体として活用しており、アクセス数の増加は評価できる。情報発信のさらなる充実に期待する。
2. 「農研トピックス」のようなタイムリーな情報は、ホームページだけでなく、ＳＮＳの活用も有効ではないか。
3. 中・高・大学生に農業への興味喚起を起こす取組に期待する。
4. 県民・地域への貢献としては、農業者や県民ニーズに合致した研究を進めている。

＜対応状況＞

- ・県内の生産者、ＪＡ職員などからの視察を積極的に受け入れ、開発した新品種や新技術を見て触れて実感してもらうことに努めている。また、県内の農業高校生や岡山大学農学部新入生を対象に研究成果や栽培現場の視察研修を行うほか、令和３年度からは小学生も対象とした夏の体験教室を開催し、より身近は研究所を目指している。
- ・残念ながらＳＮＳの活用までには至っていないが、メディアやＨＰを活用した情報発信は継続し実施している。

資 料

- 資料 1 令和 5 年度 農業研究所試験研究課題体系図
- 資料 2 試験研究関連事業一覧
- 資料 3 農業研究所の主な施設・備品
- 資料 4 試験研究主要成果一覧（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 5 農業研究所の知的財産普及状況
- 資料 6 農業研究所が開発した主な新技術普及状況
- 資料 7 解説・指導記事一覧（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 8 発表論文等一覧（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 9 学会・研究会発表一覧（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 10 技術普及のための研究会・研修会などへの対応（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 11 受賞・表彰（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 12 農業研究所における共同研究実施課題（令和 5 年実施中）
- 資料 13 視察受入状況（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 14 新聞掲載記事（令和 2 ～令和 4 年）
- 資料 15 農業研究所ホームページ

令和5年度 農業研究所 試験研究体系図

資料1

(R5.4.1時点)

農林水産総合センター運営費:試験研究1課題

農業研究所運営費(試験研究1課題)

- ・実験農場における水田農業の総合的実証試験(H24～継続) (作物・経営研)

農業研究所研究費:試験研究31課題、関連事業8課題

特別研究(試験研究1課題)

- ・バイオテクノロジー利用による地域特産品種の育成とクローン種苗大量増殖法の確立 (H19～継続)
 - └ リンドウ優良親株の維持とクローン増殖(野菜・花研)
 - └ 遺伝子解析による病害虫診断(病虫研)

一般研究(試験研究17課題)

作物・経営研究室

- ・「きぬむすめ」の高品質安定生産技術の確立(R3～R5)
- ・小麦の多収と高蛋白質含有率を両立する施肥体系の確立(R4～R6) ◇
- 新・米価低迷下における高収益水田作営農モデルの確立 (R5～R7) ■

果樹研究室

- ・果樹新品種の育成 (S56～継続)
- ・果樹導入品種の選定 (S42～継続)
- ・モモ新品種「白皇」、「白露」の高品質安定生産技術の開発 (R3～R5)
- ・ブドウ新品種の安定生産技術の確立(R2～R6) ★
- ・加温栽培「シャインマスカット」における寡日照条件下での糖度上昇促進技術の開発(R3～R5)

野菜・花研究室

- ・加工・業務用キャベツの周年安定供給技術の確立 (R4～R6) ◇ (環境・高冷地研究室と共同)
- ・「くだもの王国おかやま」を彩るイチゴ新品種の育成(H26～継続)
- ・天候対応型炭酸ガス施用による施設栽培ナス多収技術の確立 (R元～R5) ☆
- ・特産花き新品種の育成 (H30～継続)

環境研究室

- ・水田転換畑におけるモモ安定生産のための土壌改良マニュアルの作成 (R4～R8) ◇ (果樹研究室と共同)

高冷地研究室

- ・準高冷地での「シャインマスカット」成熟促進技術の確立 (R4～R6) ◇
- ・岡山県の気候に適したリンドウ新品種の育成 (H29～継続)

現地緊急・予備試験

- ・水稻・麦類作況試験 (S48～継続) (作物・経営研)
- ・S-ABAを用いたブドウの着色促進技術の確立 (R5) (果樹研)

特別事業(試験研究5課題、関連事業1課題)

- ・* 特産作物の遺伝資源管理(ジーンバンク)事業 (H3～継続) (野菜・花研究室他関係研究室)
- ・水稻・麦類新除草剤実用化試験 (H11～継続) (作物・経営研)
- ・植物調節剤実証試験 (H11～継続) (果樹研)
- ・農作物主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験 (H11～継続) (病虫研)
- ・全農肥料委託試験(継続) (環境研)
- ・全農農薬委託試験(継続) (病虫研)

一般事業(関連事業5課題)

- ＊バレイショ原種圃事業(S16～継続)(野菜・花研)
- ＊病害虫・生育障害の診断と対策指導(H13～継続)(環境研、病虫研)
 - ― 土壌に起因する生理障害の原因究明と対策(環境研)
 - ― 病害虫による障害の原因究明と対策(病虫研)
- ＊主要農作物品種試験(水稻、麦類、大豆)(S28～継続)(作物・経営研)
- ＊主要農作物原種圃事業(水稻、麦類、大豆、小豆)(M42～継続)(作物・経営研)
- ＊土壌機能増進対策事業(環境研)
 - ― 土壌機能実態モニタリング調査(S54～継続)
 - ― 化学肥料・堆肥等の適正使用指針策定調査(H12～継続)

重点研究(試験研究4課題)

- ― 極良食味水稻「きぬむすめ」のスマート農業による安定生産技術の確立(R3～R5)(作物・経営研)
- ― 「晴苺」の連続安定出荷のための栽培技術の開発(R3～R5)(野菜・花研)◆
- ― 「晴苺®」のブランド力を高める新品種育成(R4～R6)(野菜・花研)
- 新 ― DXを活用した水田転換園における果樹の省力・安定栽培技術の開発(R5～R7)(果樹研、環境研)

指定試験受託事業(試験研究4課題、関連事業2課題)

- ― ＊農地土壌炭素貯留等基礎調査事業(R3～R14)(環境研)
- ― ＊「農畜産物及び土壌中放射性核種のバックグラウンドレベルの監視」に係る試料採取業務(H27～)(環境研)
- ― ・野菜育成系統評価試験(H28～)(野菜・花研)
- ― ・ダイコン育成系統評価試験(H29～)(高冷地研)
- ― ・植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進(R3～R7)(野菜・花研)
- ― ・果樹等の幼木期における安定生産技術の開発(R2～R6)(果樹研、環境研、病虫研)
 - ― ・良質苗木の安定生産技術の開発(果樹研)
 - ― ・急性枯死症状の発生要因の解明と対策技術の開発(病虫研、果樹研、環境研)

試験研究:32題(新規2課題、継続30課題)、試験研究関連事業:8課題(継続8課題)

注: ・は試験研究課題、＊は試験研究関連事業課題を示す。

☆は平成31年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

★は平成32年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

◆は令和3年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

◇は令和4年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

■は令和5年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

農業研究所別途予算

普及連携部(農総セ連携事業促進費:試験研究6課題)

産学連携推進事業費(試験研究1課題)

外部知見活用型・産学官連携研究事業

- ・モモ育種の新しいフェーズを拓く新技術開発(R5～R7)(果樹研)

スマート農業加速化実証プロジェクト(試験研究1課題)

- ・果樹栽培の省力・高品質安定生産を可能にする スマート栽培管理支援システムの開発(R4～R6)(果樹研、高冷地研)

おokayま農林水産DX推進事業(試験研究4課題)

気候変動対策等研究・普及事業

- ・岡山県における高温耐性品種の選定基準の作成と気候変動に対応した水稻品種の選定(R4～R7)(作物・経営研)
- ・温暖化に対応する着色の優れた黒色系ブドウ新品種の選抜技術の開発(R4～R7)(果樹研)
- ・冷房処理を活用したスイートピーの着花安定化技術の確立(R4～R7)(野菜・花研)◇
- ・夏秋雨除けトマト栽培における安定生産技術の開発(R4～R7)(高冷地研)◇

農産課(安全・安心な農産物の生産流通対策費:試験研究2課題)

黒大豆枝豆産地力強化対策事業費(試験研究1課題)

- ・気象変動等に対応した黒大豆枝豆の安定生産技術の確立(R4～R6)(作物・経営研、環境研)

環境に配慮した新しい水田施肥体系の確立事業費(試験研究1課題)

- ・環境に配慮した新しい水田施肥体系の確立(R4～R6)(環境研)

農産課(農薬安全対策費:関連事業1課題)

農薬安全使用対策費(関連事業1課題)

- *農業用水調査事業(S60～継続)(環境研)

農産課(病虫害等防除総合対策事業費:試験研究5課題、関連事業1課題)

病虫害発生予察事業費(関連事業1課題)

- *病虫害発生予察事業(S16～継続)(病虫研、高冷地研)

病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立事業費(試験研究2課題)

- ・主要病虫害の薬剤感受性の発生実態の解明と有効薬剤の選抜(28～継続)(病虫研)
- ・イチゴのアザミウマ類に対する天敵防除体系の確立(R4～R6)(病虫研)

難防除病虫害防除技術確立事業費(試験研究3課題)

- ・マイナー作物等病虫害防除対策事業(H19～継続)(環境研、病虫研)
- ・アスパラガス斑点性病害の発生実態の解明と防除対策の確立(R3～R5)(病虫研)◆
- ・ブドウ栽培におけるアザミウマ類の総合的防除体系の確立(R3～R5)(病虫研)

科学研究費助成事業(試験研究1課題)

- ・モモのPan-genomeの構築とその利用による主要形質の制御遺伝子の特定(R4～R8)(果樹研)

試験研究:14課題(新規1題、継続13課題)、試験研究関連事業:2課題(継続)

注:●は試験研究課題、*は試験研究関連事業課題を示す。

◆は令和3年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

◇は令和4年度要望課題で、A:要試験 と回答した内容に関連して課題化したもの

試験研究関連事業一覧

事業名	事業内容
1. 主要農作物原種圃事業	農作物の生産や品質の改善のためには優良な種子の確保・普及が極めて重要である。特に基幹作物である水稻、麦類、大豆奨励品種の原原種、原種生産は、岡山県では「岡山県稲、麦類及び大豆の種子供給に係る基本要綱」(平成 30 年3月制定)により、知事が取り組むとされており、明治 42 年から農業研究所が担当している。令和4年現在、水稻8品種、麦類3品種、大豆2品種について実施している。
2. 主要農作物品種試験	岡山県の水稲、麦類、大豆等主要農作物の奨励品種は「岡山県稲、麦類及び大豆の種子供給に係る基本要綱」(平成 30 年3月制定)で知事が決定すると定められており、岡山県では昭和 28 年から農業研究所が調査を実施している。消費者ニーズに合致する、安定・多収で栽培しやすい品種を選定するため、令和4年度は水稻 12 品種、麦類 17 品種、大豆3品種について実施している。
3. バレイショ原種圃事業	県内にバレイショの優良な原種を増殖・配布するのは「ばれいしょ原原種及びさとうきび原原種配布要綱」に基づき都道府県が行う事業である。現在、種苗生産は、岡山県馬鈴薯採種農協に委託している。
4. 特産作物の遺伝資源管理(ジーンバンク)事業	伝統野菜等の県内の在来種をはじめとして、本県が育成した品種・系統等の遺伝資源(種子、栄養体)を保存し、将来の新品種開発の素材等に活用する。現在、作物 307 点、果樹 293 点、野菜 11 点、花 81 点を保存している。
5. 病虫害発生予察事業	「植物防疫法」に基づき、病虫害による損害を未然に防止することを目的として、病虫害の発生状況などを調査して発生と被害を予察し、発生予察情報を関係機関に提供する。各道府県の病虫害防除所で実施しているが、岡山県では農林水産総合センターに併置されており、15 品目 155 病虫害について実施している。
6. 病虫害・生育障害の診断と対策指導	農業普及指導センターを通じて持ち込まれた被害作物を迅速に診断し、原因を特定して普及指導センター等を通じて防除指導する。最近では、毎年 200 件程度の診断・指導実績がある。
7. 土壌機能増進対策事業	安全な農産物を安定的に生産するためには、堆肥等を活用した適切な土壌管理により、土壌機能の増進を図ることが重要である。そこで、県内の代表的産地について毎年2〜3集団、20〜30 地点／集団の土壌診断および土壌管理状況の調査を行い、土壌管理上の問題点を明らかにするとともに適正な土壌管理指針を示す。
8. 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	農地からの温室効果ガスの発生を削減するため、農地管理方法の違いが土壌の炭素蓄積量に及ぼす影響を調査している。調査地点数は 81 地点で4年に1回調査している。
9. 農業用水調査事業	児島湖の水質改善を目的として、児島湖周辺における笹ヶ瀬川水系、倉敷川水系について農業用水の水質と残留農薬を調査する。
10. 「農畜産物及び土壌中放射性核種のバックグラウンドレベルの監視」に係る試料採取業務	国が外国の核実験、原子力施設等に起因する放射能の影響を調査するため、国からの委託により放射性核種データ分析用の農産物(米、麦)及び土壌試料を採取する。全国 15 か所で実施している。

農業研究所の主な施設

1 本所(赤磐市)

名 称	数量	構 造	面積(㎡)	活用状況
本館	1	鉄筋コンクリート造4階建	3,269	事務室、実験室、測定室、分析室等
低温加工試験室	1	鉄骨造スレート葺平屋建	282	食品加工実験
土壌診断室	1	鉄筋コンクリートブロック造	119	土壌診断
公害ガス接触室	1	ブロック造スレート瓦葺平屋建	87	化学分析
試験調査作業室	8	鉄骨造スレート葺平屋建	1,786	各種調査、原種の調整、機械修理等
ライスセンター	1	鉄骨造スレート葺平屋建	325	ライスセンター
農場整備員室	1	鉄骨造スレート葺平屋建	132	休憩室
機械格納庫	6	鉄骨造スレート葺平屋建	567	農業機械保管
機材、肥料、薬品庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建 他	430	農機具、肥料、農薬保管
原種倉庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建	161	原種保管
温室	1	鉄骨造プラスチック葺平屋建	1,077	果樹、野菜、花等の栽培試験
	22	鉄骨造ガラス葺平屋建	3,509	
天敵飼育・増殖施設	2	木造スレートガラス瓦葺平屋建他	178	昆虫実験
堆肥舎	2	鉄骨造スレート葺平屋建 他	150	堆肥作成と保管
用土調製室	2	鉄骨造スレート葺平屋建 他	159	野菜、花用培土作成
培養室	1	ブロック造陸屋根葺平屋建	96	植物生理実験

2 高冷地研究室(真庭市)

名 称	数量	構 造	面積(㎡)	活用状況
事務、研究棟	1	鉄骨造瓦棒葺平屋建	241	事務所、分析室、顕微教室等
作業棟	1	鉄骨造瓦棒葺平屋建	97	調査室
	1	木造トタン葺平屋建	198	作業室
倉庫	1	ブロック造セメント瓦葺平屋建	40	肥料等諸資材置場
機械庫	1	鉄骨造スレート葺平屋建	64	機械庫

農業研究所の主な備品

区 分	備 品
圃場管理機器	トラクター、田植機、耕耘機、コンバイン、種子用コンバイン、籾摺機、掘削機械(草刈りアタッチメント付)、乗用型バロネス草刈機、トラクター前装式草刈機、蒸気土壌消毒器、スピードスプレーヤー、ブームスプレーヤー、種子用遠赤外線乾燥機、チップパーシュレダー、ボイラー、小型ホイールローダー、ショベルホイールローダー、土壌改良機グロースガン、ベルト式フルカラーデジタル穀類選別機、ビニルハウス用複合環境制御装置、水田転換畑用土壌理化学性同時多圃場モニタリング装置、生育観測用ドローン、ロボットトラクタ、食味・収量コンバイン、ドローンリモートセンシング装置、リンドウ連作障害対策装置一式、小規模精密型養液栽培システム、田植機(直進アシスト、可変施肥機能付き)
土壌・化学分析機器	ドラフトチャンバー、味度測定装置、フルーツセレクトター(非破壊糖度計)、分光測色計、味認識装置、ガスクロマトグラフ装置、液体クロマトグラフ装置、炭素・窒素測定装置、分光光度計、高速処理比色分析装置、高周波プラズマ発光分析装置、近赤外線分析装置、におい嗅ぎガスクロマトグラフ質量分析計、CEC全自動汎用抽出・ろ過装置、高性能高速液体クロマトグラフダンデム質量分析計、全自動元素分析装置、土壌水分動態測定装置、GPS付き土壌水分計
生物学 遺伝子分析機器	蛍光X線分析装置、高速冷却遠心機、アクアテックアナライザー、リアルタイムPCR装置、マルチピーズショッカー、電気泳動装置、RNA検体精密粉碎機
その他 実験測定機器等	電気泳動装置、滅菌装置、超低温フリーザ、細胞融合装置、電子顕微鏡(透過型、走査型)、マイクローム、気象観測システム、光合成蒸散測定装置、温度データ集録装置、人工降雨装置、病原菌接種用高湿度環境制御庫、植物人工育成装置、天敵・害虫生態解明用多連装恒温恒湿室、幹内樹液流量測定(サップフロー)システム、フローサイトメーター、青果物鮮度維持装置

令和2年度試験研究主要成果一覧（26課題）

注：（技術）新技術として直ちに利用できる成果
（情報）問題解決の一部として活用できる成果

○共通部門

1. 水田及び露地野菜畑における有機物施用による土壌炭素貯留量の向上（情報）

○水田作部門

1. 水稻「アケボノ」の乾田直播栽培及び麦後作移植栽培で安定多収生産を実現するための目標収数と稈長と収数の推定方法（情報）
2. 稲麦二毛作水田への稲・麦わらのすき込みが可給態窒素量及び水稻の収量、品質に及ぼす影響（情報）

○畑・転換畑作部門

1. ビール大麦品種「スカイゴールド」の収穫適期を判断するチャートの作成（情報）
2. 黒大豆産地における生育良好圃場の土壌管理及び栽培管理の特徴（情報）

○果樹部門

1. モモ「白露®」の収穫適期を判断するカラーチャートの作成（技術）
2. モモのY字形新樹形による若木期の収量の向上（情報）
3. 「おかやま夢白桃」の樹勢低下の一要因（土壌の硬さ）（情報）
4. 「おかやま夢白桃」の樹勢を適正に維持するための評価指標（情報）
5. 岡山県におけるモモせん孔細菌病菌の薬剤感受性の実態（情報）
6. モモの新しい病害「くもの巣病」の発生（情報）
7. 「シャインマスカット」の加温栽培に適した葉面積の目安（情報）
8. 「シャインマスカット」の支梗の矯正処理に要する作業時間と出荷等級の向上効果（情報）
9. 「シャインマスカット」の1月下旬加温栽培における栽培暦（技術）
10. ブドウ晩腐病に対する果粒大豆大期の有効な防除薬剤（技術）
11. 簡易被覆栽培ブドウにおける晩腐病菌の動態（情報）
12. ブドウのコナカイガラムシ類の被害抑制には、効果の高い薬剤による発芽前の防除が有効である（技術）

○野菜部門

1. 「おいCベリー」の花芽分化確認から定植までの日数は初期収量に大きく影響する（情報）
2. 単為結果性を持つナス「PC千両」の収量及び品質（情報）
3. 加工・業務用キャベツ栽培で大玉生産に適する栽植密度（技術）
4. 水田土壌の「見た目」と「握った感触」による土壌水分の見える化（情報）
5. 静電容量型土壌水分センサーを用いた土壌水分の見える化（情報）
6. 県南部の施設ナス産地における高収量圃場の土壌管理の特徴（情報）
7. 岡山県のイチゴ栽培における薬剤耐性炭疽病菌の発生状況（情報）
8. シュンギクの新しい病害「根頭がんしゅ病」の発生（情報）

○花き部門

1. スイートピーは難落蕾性個体から採種すると、次世代で難落蕾性個体が多くなる（情報）

令和3年度試験研究主要成果一覧（37課題）

○共通部門

1. 農作物生育障害診断アシストシステムの作成（情報）

○水田作部門

1. 水稻業務用多収品種「やまだわら」の安定多収に適した施肥体系（情報）
2. リモートセンシング技術を活用した水稻「アケボノ」の追肥判断（情報）
3. リモートセンシング技術を活用した水稻「ヒノヒカリ」、「アケボノ」の窒素吸収量の推定（情報）
4. リモートセンシングデータを活用した水稻「ヒノヒカリ」の品質低下軽減のための追肥判定指標（情報）
5. 水稻の硫黄欠乏症の特徴と対策（技術）
6. 水稻の硫黄欠乏症の診断基準（情報）

○畑・転換畑作部門

1. ビール大麦の地域適応優良品種「サチホゴールデン」（技術）

○果樹部門

1. モモ「玄桃（「冬桃がたり®」）」の系統別特性（情報）
2. 果実袋の物性の違いがモモ「白皇®」の裂皮及び果実品質に及ぼす影響（情報）
3. 「ひだ国府紅しだれ」台木を用いた「白皇®」、「白露®」若木の生育特性（情報）
4. 樹勢が低下した「おかやま夢白桃」の樹勢を向上させる土壌管理方法（情報）
5. モモの急性枯死症が発生する圃場の特徴（情報）
6. ブドウ「マスカットジバング」の裂果及び裂皮の発生が少ない無核化・肥大処理（情報）
7. 「ピオーネ」の着色を促進する新規植調剤（S-A-B-A）の果房散布処理効果の特徴（情報）
8. 「ピオーネ」の満開期一回処理における処理適期（技術）
9. 加温栽培「シャインマスカット」の満開期一回処理では花穂発育処理を必須とする（技術）
10. 緑枝接ぎ法によるブドウ苗木の安定生産（技術）
11. 準高冷地では「シャインマスカット」の果粒軟化日が大幅に遅延することがある（情報）
12. ブドウ「オーロラブラック」の長期冷蔵に適した鮮度保持資材（技術）
13. ブドウ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」のおいしさのPR資料（情報）
14. 岡山県における薬剤耐性ブドウベと病菌の発生実態（情報）

○野菜部門

1. イチゴ「おいCベリー」の定植直後に施肥をすると12月上旬までの収量が増加する（技術）
2. イチゴ「おいCベリー」の定植が遅れた苗は、施肥することで収穫開始日の遅延を緩和できる（技術）
3. 準高冷地の加工・業務用キャベツ栽培に適する品種「なつおこ」（技術）
4. 準高冷地の加工・業務用キャベツ栽培に適する窒素施肥量（情報）
5. 岡山県中北部におけるカリウム葉面散布によるトマト葉先枯れ症の抑制効果（情報）
6. トマトの摘花房処理による秋期増収効果（技術）
7. 黒大豆「岡山系統1号」とリレー出荷が可能となる枝豆用黒大豆品種「岡山SYB1号」の播種適期（技術）

8. 「水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策フローチャート」の作成（技術）
9. 「水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策マニュアル」の作成（技術）
10. 黒大豆「岡山SYB1号」及び「岡山系統1号」の枝豆の食感の特長（情報）
11. 黒大豆「岡山系統1号」の枝豆の香りの特長（情報）
12. 黒大豆枝豆の枝付き保管は莢もぎ後のMA包装保管と同等の鮮度保持効果がある（情報）
13. おかやま黒枝豆のおいしさのPR資料（情報）
14. イチゴのナミハダニに対する薬剤の防除効果（情報）

○花き部門

1. 8月下旬から開花するF1青花中生リンドウ新品種「岡山RND5号」の育成（技術）

令和4年度試験研究主要成果一覧（45課題）

○共通部門

1. 現場でできる透水性診断による下層土の診断基準（情報）

○水田作部門

1. 県内水田の可給態硫黄含量及び灌がい水中の硫黄濃度の実態（情報）
2. 水稻の硫黄欠乏症対策に有効な資材（情報）
3. 岡山県における薬剤耐性イネばか苗病菌の発生実態と有効薬剤（情報）

○畑・転換畑作部門

1. ビール大麦「サチホゴールデン」の幼穂凍死を回避する播種時期（情報）
2. 糯性裸麦「キラリモチ」の播種適期（情報）
3. 糯性裸麦「ダイシモチ」の播種適期並びに播種時期に応じた栽培法（情報）
4. 晩生水稲後の麦作における除草剤抵抗性スズメノテッポウの防除体系（技術）
5. ガイダンスを用いた黒大豆マルチ栽培は乗用管理機による畦間除草の作業性が向上する（情報）
6. 黒大豆のマルチ栽培におけるガイダンスと乗用管理機を用いた低コスト除草方法（情報）
7. ガイダンスを利用した黒大豆のマルチ栽培における経営評価（情報）
8. 大豆のハスモンヨトウに対する有効薬剤（情報）

○果樹部門

1. モモ「白皇®」の収量確保を目的とした着果管理方法（技術）
2. モモ「清水白桃」における側枝の基部径に基づいた簡易な着果管理指標（技術）
3. Y字形に仕立てたモモの密植低樹高栽培法のマニュアルの作成（技術）
4. 高性能冷蔵庫で2週間冷蔵した「白皇®」及び「白露®」の果実品質（情報）
5. モモ胴枯細菌病（急性枯死症）発病樹の樹勢はやや強い傾向である（情報）
6. モモ胴枯細菌病（急性枯死症）発病樹における病原菌の分布と生存状況（情報）
7. 「ピオーネ」の着色促進に有効なS-ABAの果房散布液量（情報）
8. 「ピオーネ」及び「オーロラブラック」における着色の優れる副梢管理法（技術）
9. 「シャインマスカット」の糖度上昇が優れる果粒肥大処理（情報）
10. 加温栽培「シャインマスカット」で果房への青色の補光が果実品質に及ぼす影響（情報）
11. ブドウ「マスカットジパング」に適した果房管理方法（技術）
12. ブドウ「マスカットジパング」の収穫適期（情報）
13. ブドウ「マスカットジパング」及び「クイーンニーナ」の葉面積換算表の作成（情報）

14. ブドウ「グロースクロネ」の生育時期及び果実品質の特徴（情報）
15. 冷蔵したブドウ「オーロラブラック」の香りの評価法と香りを保つ長期冷蔵法（情報）
16. ブドウ「シャインマスカット」の長期冷蔵技術の開発（技術）
17. 長期冷蔵ブドウの経済性と長期冷蔵に取り組む際の課題（情報）
18. ブドウのチャノキイロアザミウマに対する有効薬剤（情報）
19. ブドウ晩腐病に対するミギワ 20 フロアブルの有効性（技術）
20. 落果防止剤の散布によるナシ「晴香®」の収穫前落果の抑制効果（技術）

○野菜部門

1. イチゴ「おいCベリー」のクラウン径と年内収量の関係（情報）
2. 炭酸ガス施用施設ナス栽培において収量を増加させる換気方法（情報）
3. 準高冷地で高温期に定植しても葉が枯れにくいキャベツの育苗方法（技術）
4. 子実用トウモロコシの作付けは養分の持出量を抑えつつ、土壌の物理性を改善できる（情報）
5. イチゴのヒラズハナアザミウマに対する薬剤の殺虫効果の現状（情報）
6. アスパラガス褐斑病に対するコサイド 3000 の防除効果は展着剤の加用により向上する（情報）
7. 県内に発生しているアミスター20 フロアブル耐性アスパラガス褐斑病菌に有効な薬剤（情報）

○花き部門

1. ラークスパーのピンク花新品種「岡山LAR4号」の育成（技術）
2. シキミの挿し木繁殖用優良母樹「Y-1」と「Y-10」の選抜（情報）
3. 10月上旬から開花するF₁青花晩生リンドウ新品種「岡山RND6号」の育成（技術）

○経営部門

1. 水田作認定農業者の営農実態と育成に向けた課題（情報）
2. 水田作経営における新規就農の課題とその対応策（情報）
3. 水田農業における経営継承のためのチェックリストの作成（情報）

1 育成者権（登録・出願品種）

作物名	品種名称	登録年月日	特 徴	利用許諾	普及状況等(R4)
稲	あかおにもち	H18.7.13	珍しい赤い糯(もち)米	○	91a
黒大豆	岡山SYB1号	R3.8.5	岡山系統1号より約10日早熟で、茶しみ症が出にくい枝豆用品種	○	3.7ha (R3)
あずき	夢大納言	H18.7.13	加工適性が高く、県南部でも栽培しやすい	○	2ha(R3)
	岡山ADZ1号 【備中夢白小豆】	H29.4.12 【H29.9.29】	栽培しやすく大粒、多収で、製あん適性が優れる	○	3.9ha
もも	白麗	H11.7.21	果皮白色、肉質と食味が優れる晩生品種	○	29ha
	おかやま夢白桃	H17.3.14	果皮白色、作りやすく、大玉、高糖度の晩生品種	○	92ha
	さきがけはくとう	H25.6.18	外観が白くて食味が優れる早生品種	○	1ha
	岡山PEH7号 【白皇】	H28.3.22 【H29.9.15】 H31.3.11 (中国出願中)	果皮白色、高糖度、食味優れる極晩生品種	○	19ha
	岡山PEH8号 【白露】	H28.3.22 【H29.9.15】 H31.3.11 (中国出願中)	果皮白色、大果で軟らかく多汁、食味優れる極晩生品種	○	3ha
	岡山PEH10号	R4.7.26 (出願公表)	果皮白色、高糖度、食味優れる中生品種	○	
	岡山PEH11号	R4.7.26 (出願公表)	高糖度、食味優れる中生の黄肉品種	○	
ぶどう	オーロラブラック	H15.2.20	着色しやすく、極めて脱粒しにくい大粒の黒色ブドウ	○	84ha
なし	岡山PER1号 【晴香】	R2.1.28 【H29.9.15】	芳香があり、食味が優れ、果肉障害が少なく、栽培容易	○	苗木販売94本 (R4まで)
いちご	岡山STB1号	H29.2.8	夏秋栽培での収量が多く、大果の四季成り性品種	○	県内2か所(新見市、久米南町) 2.2aで栽培
スイートピー	岡山SWP4号	R2.9.17	花色が黄白色で、花卉の先端に浅橙色が入り、巻きひげがない	—	
ブルーレース フラワー	岡山BLF1号	R元.8.16	花青で、生育揃いがよく、草姿が横に広がらず作業性優れる	○	4.6a (2戸、R40) 県外でも栽培可
りんどう	岡山RND4号	R4.7.11	蒜山で6月下旬～7月中旬に開花する青花の極早生品種	○	0.3ha
ラークスパー	岡山LAR3号	R2.6.2 (出願公表)	濃紫青と濃青紫の二色咲き、切り花ボリュームが出やすい	○	1.2a(1戸、R4)

2 育成品種（系統）

作物名	系統名称	育成時期	特 徴	利用許諾	普及状況等
黒大豆	岡山系統1号	H16	大粒で品質の良い黒大豆	—	1115ha (R3)
ラークスパー	P1C、L12E、 SW55-3-2	H20	電照加温促成栽培用のピンク(PIC)とラベンダー(L12E)	—	22a
りんどう	岡山リンドウ1・2号	H22	耐暑性に優れるF1青花品種 1号: 盆出荷、2号: 彼岸出荷	—	「おかやま夢りんどう」 全体で1.9ha
	岡山リンドウ3号	H27	8月中旬～9月上旬に開花する花卉がピンク色の品種	—	
	岡山RND5号	R3	8月下旬から開花するF1青花品種	—	

網掛けは過去3年間に登録または出願したもの。○は許諾中。

品種名称・登録年月日の各欄の【 】は商標名を示す。

育成品種(系統)は登録品種ではないが、普及しているもの

3 特許権

特許名	登録年月日	概要	実施許諾	普及状況
新菌株、該新菌株を用いた根頭がんしゅ病防除剤及び／又は植物種子発芽率向上剤	H27.12.18 (国内登録)	根頭がんしゅ病防除のための拮抗細菌	—	
果実袋	H28.2.5 (国内登録) H29.3.17 (韓国登録) H29.5.21 (台湾登録)	夏季高温による果肉の生理障害対策の遮熱袋	○	H29年市販開始。積算販売枚数 3,236,400枚(H29～R4)
リゾビウム属菌の培養方法	R2.4月 (PCT出願国内 (日、米、欧)移行中)	根頭がんしゅ病防除のための拮抗細菌の製剤化	—	
微生物凍結乾燥組成物	R2.4月 (PCT出願国内 (日、米、欧)移行中)	根頭がんしゅ病防除のための拮抗細菌の製剤化	—	

4 実用新案権

実用新案名	登録年月日	概要	実施許諾	普及状況
樹木の凍・寒害防止資材	H27.9.2	檜のプレーナー屑を利用した凍害防止資材	○	525個(R元～4)

網掛けは過去3年間に出版または登録したもの。○は許諾中。

農業研究所が開発した主な新技術普及状況
(令和4年度 普及推進課調べ)

資料6

項目	No.	技 術 名	令和4年度合計		令和3年度合計	
			面積(a)	戸数(戸)	面積(a)	戸数(戸)
作物	1	鉄コーティングを利用した水稻の湛水直は栽培	2,743	17	2,344	13
	2	水稻育苗箱への全量施肥技術	13,950	9	7,138	4
	3	水稻の密播育苗栽培技術	32,219	38	29,298	39
	4	水稻の緑肥利用技術	7,146	39	6,785	36
	5	県産ビール大麦の品質向上に役立つ全量基肥肥料	119,350	436	118,550	435
	6	黒大豆のマルチ栽培	9,783	115	9,525	111
野菜	7	「はればれプラント」を利用したいちご高設栽培技術	904	64	819	59
	8	いちごのCO ₂ 局所施用	30	3	43	4
	9	露地ナスの天敵利用栽培（ヒメハナカメムシとタバコカスミカメの併用）	56	7	56	7
	10	トマトのマルハナバチ利用（セイヨウマルハナバチ） ※トマト含む	523	24	644	29
	11	〃（クロマルハナバチ） ※トマト含む	1,451	68	1,405	58
	12	いちごのマルハナバチ利用	174	12	225	11
	13	アスパラガス被覆栽培（ハウス）	205	31	239	33
	14	〃（雨よけ）	29	5	30	3
果樹	15	もも「白皇」の二重袋による裂皮抑制	916	228		
	16	もも園における土壌改良資材を用いた部分深耕による土壌の物理性改善	1,290	106	1320	108
	17	もも「清水白桃」の機能性果実袋による果肉障害の軽減	1,280	105	1270	103
	18	「ひだ国府紅しだれ」台木を用いたももの凍害抑制	39	10	32	10
	19	「シャインマスカット」のフラスター液剤散布による副梢管理の省力化	507	37	450	34
	20	「シャインマスカット」加温栽培での花穂発育処理を前提とした満開期1回処理	57	4		
	20	「シャインマスカット」加温栽培でのシアナミド剤処理による新梢伸長の改善	156	17	105.4	12
花き	21	ブプレウラムの超促成栽培における安定生産技術	108	7	108	7
	22	おかやまオリジナルラークスパー優良系統の普及	16	8	14	9
	23	小ギクの電照栽培技術	80	16	60	18
	24	りんどうの隔離床栽培（粉碎樹皮培地コンテナ栽培等）	104	13	106	13
	25	しきみの低木仕立て栽培（仕立て直しを含む）	78	10	39	6
共通	26	天敵利用による総合防除技術（施設ナス、イチゴ、トマト、ブドウ）	3,925	198	2,041	121
			197,118	1,627	182,644	1,283

令和2年度（計39件）

〔水田作部門〕

1. 営農技術情報 期待の新品種「備中夢白小豆」 日本農業新聞

〔果樹部門〕

1. 「シャインマスカット」の無核化率向上技術 果実日本
2. モモ一部分マルチの敷設方法ー 果樹（全農岡山）
3. 令和元年度 農業研究所における試験研究の取り組み 果樹研究室における取り組み（前編）モモ 果樹（全農岡山）
4. 令和元年度 農業研究所における試験研究の取り組み 果樹研究室及び高冷地研究室における取り組み（後編）ブドウ 果樹（全農岡山）
5. 「ピオーネ」に環状はく皮を行うと、果肉の軟化や脱粒の危険性が高まる 果樹（全農岡山）
6. モモ 収穫後の栽培管理 果樹（全農岡山）
7. モモの台木ー「ひだ国府紅しだれ」ー 果樹（全農岡山）
8. 岡山県農業研究所ブドウ園及びモモ園における土壌管理方法 果樹（全農岡山）
9. 「白皇」、「白露」今までの取組内容と成果、今後の試験展望 果樹（全農岡山）
10. 今年の栽培反省と次年度の対策ーモモー 果樹（全農岡山）
11. 今年の栽培反省と次年度対策ーブドウー 果樹（全農岡山）
12. 令和2年度 岡山県うまいくだもの共進会（シャインマスカット、マスカット・オブ・アレキサン ドリア共進会）の審査結果について 果樹（全農岡山）
13. モモ及びブドウ栽培における晩霜害対策について 果樹（全農岡山）
14. ブドウの無核化率向上に向けた取り組みについて 果樹（全農岡山）
15. 営農技術情報 モモ栽培での高所作業車の導入効果 日本農業新聞
16. モモ及びブドウ栽培における晩霜害対策について 果樹（全農岡山）
17. 令和元年度 農業研究所における試験研究の取り組み 環境研究室における取り組み 果樹（全農岡山）
18. 県内モモ園の土壌調査結果（Ⅱ）土壌物理性の実態と対策 果樹（全農岡山）
19. モモのカイガラムシ類は種類別に適期防除を行いましょう！ 果樹（全農岡山）
20. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」をご存知ですか？ 果樹（全農岡山）
21. 令和元年度 農業い研究所における試験研究の取り組み 病虫研究室における取り組み 果樹（全農岡山）
22. ブドウのスリップスとダニ類の生態と被害の見分け方 果樹（全農岡山）
23. モモすすかび病の生態と防除対策 果樹（全農岡山）
24. 薬剤耐性菌と抵抗性害虫のはなし～農薬が効きにくくなる前に～ 果樹（全農岡山）
25. モモせん孔細菌病の秋期以降の防除徹底を！ 果樹（全農岡山）
26. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の被害について 果樹（全農岡山）
27. 今年問題となった病害虫とその対策 果樹（全農岡山）
28. モモせん孔細菌病の対策について～春季からの防除徹底を！～ 果樹（全農岡山）
29. 今月の果樹管理 果樹（全農岡山）
30. 研究室紹介～岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室～ 植物防疫 74(11)

31. 果樹害虫の最近の動向と防除策 岡山県におけるモモの主要害虫と防除対策 果実日本

32. 岡山県内モモ・ブドウ園の土壌と樹体の実態 作物生産と土づくり

〔野菜部門〕

1. トマトの放射状裂果の発生軽減剤の開発 植調
2. 営農技術情報 トマト灰色かび病の薬剤耐性菌 日本農業新聞
3. 営農技術情報 混合堆肥複合肥料のすすめ 新しい肥料の紹介 日本農業新聞

〔花き部門〕

1. 営農技術情報 花き種子の発芽促進 3区分で試験無覆土がおすすめ 日本農業新聞
2. 営農技術情報 リンドウ極早生導入出荷期間拡大を実現 日本農業新聞

〔共通部門〕

1. 営農技術情報 冷涼な条件生かす取り組みを紹介 多収や高品質化に成果 日本農業新聞

令和3年度（計31件）

〔水田作部門〕

1. 営農技術情報 黒大豆のマルチ栽培における畦間かん水 日本農業新聞
2. 岡山県における水稻の硫黄欠乏症状の実態と対策技術の開発 土づくり推進フォーラム
3. 岡山県における水稻の硫黄欠乏症状の実態と対策技術の開発 作物生産と土づくり

〔果樹部門〕

1. 果樹園管理のポイント モモ 果実日本 77(1)(3)
2. 岡山県における品種開発と最新の優良品種 果実日本 77(1)
3. 令和3年度 農業研究所における試験研究の取り組み 果樹研究室における取り組み（前編）モモ 果樹（全農岡山）
4. 令和3年度 農業研究所における試験研究の取り組み 果樹研究室及び高冷地研究室における取り組み（後編）ブドウ 果樹（全農岡山）
5. モモ 収穫後の栽培管理 果樹（全農岡山）
6. 白桃安定生産技術研修会 土づくり方法の紹介 果樹（全農岡山）
7. 今年の栽培反省と次年度の対策ーモモー 果樹（全農岡山）
8. 今年の栽培反省と次年度対策ーブドウー 果樹（全農岡山）
9. 令和3年度 岡山県うまいくだもの共進会（モモ共進会）の審査結果について 果樹（全農岡山）
10. 果樹の晩霜害対策について 果樹（全農岡山）
11. 営農技術情報 モモのY字形新樹形による若木期の収量の向上 日本農業新聞
12. 岡山の果樹（モモ編） 会報「花」
13. 岡山の果樹（ブドウ編） 会報「花」
14. 令和2年度農業研究所における試験研究の取組ー環境研究室における研究取組ー 果樹（全農岡山）
15. 果樹栽培の基礎、深耕による土づくりをしましょう 果樹（全農岡山）
16. 水田転換モモ園の土づくりについて 果樹（全農岡山）
17. モモせん孔細菌病の秋期以降の防除徹底を！ 果樹（全農岡山）
18. 今年問題となった病害虫とその対策 果樹（全農岡山）
19. 今月の果樹管理 果樹（全農岡山）
20. 今月の果樹管理 果樹（全農岡山）

21. モモせん孔細菌病の対策について～春季からの防除徹底を！～ 果樹（全農岡山）

22. 営農技術情報 雨除け栽培におけるブドウ晩腐病の防除対策 日本農業新聞

[野菜部門]

1. ミニ情報 灌水がナス‘千両’の促成栽培における日焼け果の発生に及ぼす影響 施設と園芸
2. 営農技術情報 加工・業務用キャベツ 大玉にするには株間を 40 センチに広げて 日本農業新聞
3. 営農技術情報 黒大豆枝豆MA包装効果～主要食味成分の減少抑制～ 日本農業新聞
4. カリ過剰がハウレンソウのシュウ酸含量と「えぐみ」に与える影響 作物生産と土づくり

[花き部門]

1. 営農技術情報 スイートピー落蕾減に選抜採種有効 日本農業新聞

[共通部門]

1. 営農技術情報 北部向け ブドウ品種ごと高品質技術/トマト秋期増収へ品種選定 日本農業新聞

令和4年度（計31件）

[水田作部門]

1. 営農技術情報 硫黄欠乏の対策 石こうなどの資材を散布 日本農業新聞

[果樹部門]

1. 果樹園管理のポイント モモ 樋野友之 果実日本 77（5）（7）（9）（11）
2. 岡山県におけるモモ台木「ひだ国府紅しだれ」の台木特性について 果実日本 77（12）
3. モモの収穫後管理について 果樹 76（8）
4. おかやま夢白桃の熟期前進対策 果樹 76（10）
5. 果実袋の種類と外観、果実品質及び生理障害との関係 果樹 76（11）
6. 今年の栽培反省と次年度対策－モモ－ 果樹 76（12）
7. 今年の栽培反省と次年度対策－ブドウ－ 果樹 76（12）
8. ハウスブドウの温度管理 果樹 77（1）
9. 今月の果樹園管理 果樹 77（1）（3）
10. 低温によるモモの結実被害が生じる温度と結実確保対策 果樹 77（3）
11. 営農技術情報 生産性の高いブドウ苗木の育成方法を開発 日本農業新聞
12. ブドウの施肥 肥料高騰している今、無駄のない施肥を考える 果樹 77（3）
13. 近年発生が見られるモモ急性枯死症（胴枯細菌病）について 果樹 76（7）
14. 岡山県におけるブドウ害虫の最近の動向と防除対策 果実日本 78（2）
15. モモ縮葉病の生態と防除対策 果樹 76（10）
16. 今月の果樹園管理（病虫害） 果樹 77（1）～（3）
17. モモせん孔細菌病の秋期以降の防除徹底を！ 果樹 76（9）
18. 今年問題となった病虫害とその対策 果樹 76（12）
19. 今月の果樹管理 果樹 76（4）～（12）
20. モモせん孔細菌病の対策について～春季からの防除徹底を！～ 果樹 77（3）
23. 営農技術情報 ブドウのコナカイガラムシ類の防除について 日本農業新聞
24. モモのカイガラムシ類は種類別に適期防除を行いましょう！ 果樹 76（4）
25. 令和3年度農業研究所における試験研究の取組み－病虫研究室における研究取組み－ 果樹 76（6）

[野菜部門]

1. 営農技術情報 「晴苺」振興へ12月から安定生産果 日本農業新聞

2. トマトの摘花房処理による秋期増収効果 農耕と園芸 77 (4)

3. 営農技術情報 夏秋雨よけトマト秋期の増収 穂木・台木と着果管理が鍵 日本農業新聞

[共通部門]

1. 営農技術情報 果樹・野菜・花き対象に生産性向上への新技術/準高冷地栽培、新品種育成 日本農業新聞

[農業経営部門]

1. 営農技術情報 中山間地域農業の維持・発展に向けた経営関連マニュアル・ツールの作成 日本農業新聞

令和 2 年度（計 9 件）

〔共通部門〕

1. Soil management for environmental load reduction (Kinki, Chugoku, and Shikoku Regions)
The Soils of Japan, World Soils Book Series

〔水田作部門〕

1. 業務用向け水稻品種「アケボノ」の多収生産において目指すべき収量および収量構成要素 日本作物学会紀事
2. 岡山県の水稲との二毛作において二条大麦の安定多収生産を実現する効率的な耕起・播種体系 岡山県農総セ農研研究報告

〔果樹部門〕

1. 岡山県における生育と栽培管理 シャインマスカットの栽培技術（創森社）
2. モモ「清水白桃」の赤肉果発生に及ぼす気温の影響および障害を抑制する機能性果実袋の開発 園芸学研究
3. 岡山県育成のモモ新品種「岡山 PEH8 号（白露®）」の食べ頃の判断基準の検討 岡山県農総セ農研研究報告

〔野菜部門〕

1. 岡山県における主要作型と実際の栽培 トマトの生産技術
3. 岡山県におけるアスパラガス茎枯病菌の数種薬剤に対する感受性と有効薬剤の選抜 岡山県農総セ農研研究報告

〔花き部門〕

1. ラークスパー新品種「岡山 LAR3 号」の育成 岡山県農総セ農研研究報告

令和 3 年度（計 9 件）

〔水田作部門〕

1. 水田における家畜ふん堆肥施用時期を考慮した施肥設計技術の確立 日本土壤肥料学雑誌
2. 岡山県の新しい二条大麦奨励品種（地域適応優良品種）「サチホゴールデン」 岡山県農総セ農研研究報告
3. 気温とトビイロウンカが生息するイネ群落内環境との関係 岡山県農総セ農研研究報告

〔果樹部門〕

1. 部分マルチ敷設による生理障害対策 モモ・スモモ大事典
2. 高糖度モモ生産のための総合的栄養診断 モモ・スモモ大事典
3. 岡山県育成のモモ「岡山 PEH8 号（白露®）」の収穫適期把握のためのカラーチャートの開発 岡山県農総セ農研研究報告
4. 岡山県のモモ栽培における気象変動が生理障害発生に及ぼす影響の把握と対策技術の開発 岡山県農総セ農研特別研究報告

〔野菜部門〕

1. 灌水がナス「千両」の促成栽培における日焼け果の発生に及ぼす影響 園芸学研究
2. スカエボラの最適な挿し芽増殖条件の解明 岡山県農総セ農研研究報告

令和4年度（計12件）

[共通部門]

1. 混合堆肥複合肥料の製造と利用 荒川祐介・森次真一 地力アップ大事典（農文協）：1021-1031

[果樹部門]

1. 岡山県の施設ブドウ‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’におけるネギアザミウマによる果粒果頂部への加害 岡山県農総セ農研研究報告
2. モモ‘清水白桃’における収穫後の尿素葉面散布が翌年の初期生育に及ぼす影響および葉面散布由来の窒素成分の樹体内分配 樋野友之・高田大輔・井上博道・安井淑彦・荒木有朋・藤井雄一郎 園芸学研究 21（4）：473－481
3. Biological Control for Grapevine Crown Gall Evaluated by a Network Meta-Analysis Akira Kawaguchi, Namiko Kirino and Koji Inoue Plants 12：572
4. ルーラル電子図書館 病虫害・雑草データベース 井上幸次（モモ6病害）・桐野菜美子（モモ1病害）・高馬浩寿（モモ害虫4種）・薬師寺賢（モモ害虫2種） 農山漁村文化協会（電子出版）
5. WEB版防除ハンドブック モモの病虫害 井上幸次（黒斑病ほか7病害） 全国農村教育協会（電子出版）

[野菜部門]

1. 土壌のカリウム肥沃度の違いがハウレンソウの食味と内容成分に及ぼす影響 岡山県農総セ農研研究報告
2. 高倍率（50×）ルーペを用いたキュウリの斑点性病害の診断 岡山県農総セ農研研究報告
3. 岡山県における2000年代以降のキュウリ褐斑病菌の薬剤感受性の変化 畔柳泰典・井上幸次 関病虫研報 64：101-104
4. 促成栽培ナスにおけるスワルスキーカブリダニに適した天敵温存植物の探索 西優輔・綱島健司・畔柳泰典・安部順一朗 関西病虫害研究会報 64：81-88
5. 岡山県における土着天敵タバコカスミカメに対する農薬の影響評価 西優輔 植物防疫 76(7):363-366
6. An HLD Model for Tomato Bacterial Canker Focusing on Epidemics of the Pathogen Due to Cutting by Infected Scissors Akira Kawaguchi, Shoya Kitabayashi, Koji Inoue and Koji Tanina Plants 11: 2253

令和2年度（計16件）

〔水田作部門〕

1. 可給態硫黄含量が低い水田への石膏施用が水稻の生育や収量、硫黄吸収量等に及ぼす影響 2020 年度日本土壌肥料学会講演要旨集
2. 水稻作におけるリン及びカリウムの施肥削減に係る広域評価 2020 年度日本土壌肥料学会関西支部講演要旨集

〔畑・転換畑作部門〕

1. 転作田における飼料用トウモロコシの二期作栽培に適した安定生産技術の検討 第2報 地下水位とロール収量の相関性に関する評価 2020 年度土壌肥料学会関西支部講演要旨集

〔果樹部門〕

1. モモ黒斑病罹病性に関連する遺伝子座領域の推定 育種学研究 22（別2）
2. 白皇・白露の品種特性と導入のポイント 令和2年度晩生品種の研修・検討会 岡山県うまいくだものづくり推進本部（講要）
3. もも新品種の栽培技術等について 令和2年度白桃安定生産技術研修会 岡山県うまいくだものづくり推進本部（講要）
4. 気象変動に対応した栽培技術について 令和2年度白桃安定生産技術研修会 岡山県うまいくだものづくり推進本部（講要）
5. モモ黒斑病に対する防除体系の検討 日本植物病理学会報
6. 岡山県におけるストレプトマイシン耐性モモせん孔細菌病菌の発生 日本植物病理学会報（講要）
7. 無核化・肥大処理液を介したブドウ晩腐病菌の感染の検討 日本植物病理学会報（講要）
8. 果実袋への殺菌剤散布が袋外からのブドウ晩腐病菌の感染に及ぼす影響 日本植物病理学会報（講要）
9. 無核化・肥大処理液を介したブドウ晩腐病菌の感染の検討（2）日本植物病理学会報（講要）
10. 岡山県内モモ・ブドウ園の土壌と樹体の実態 2020 年度日本土壌肥料学会講演要旨集

〔野菜部門〕

1. 腐植含量の少ない圃場での有機物連用による促成栽培ナスの日焼け果の発生抑制 2020 年度日本土壌肥料学会講演要旨集
2. ソルビタン脂肪酸エステルの散布がナス促成栽培における日焼け果の発生および果実からの水分減少速度に及ぼす影響 園芸学研究（講要）
3. 静電噴口を用いた走行式防除機によるブドウの病害防除 日本植物病理学会報（講要）

令和3年度（計22件）

〔水田作部門〕

1. 「岡山県における適応策の取組事例について」 令和3年度地域における気候変動適応実践セミナー 中国・四国セミナー（水稻） 農林水産省（講要）（資料5）
2. 画像解析による岡山県奨励品種きぬむすめの栄養指標値の推定 第253回日本作物学会講演会要旨集
3. 水稻作における石膏施用が土壌溶液中硫黄濃度の推移に及ぼす影響 2021 年度日本土壌肥料学会講演要旨集

[果樹部門]

1. 挿し床温度および台木品種の違いがブドウ接ぎ挿し苗の生存率および形質に及ぼす影響（講要）園芸学研究 21(別 1)
2. 緑枝接ぎ法によるブドウ苗木の育成技術の開発（講要）園芸学研究 21(別 1)
3. モモの melting flesh (M) 遺伝子座における polygalacturonase (PG) 遺伝子の発現差異（講要）園芸学研究 21(別 1)
4. 収穫適期の把握方法に関する取り組み 令和 3 年度白桃安定生産技術研修会 岡山県うまいくだものづくり推進本部（講要）
5. 花芽充実、樹を回復させるための収穫後の栽培管理について 令和 3 年度白桃安定生産技術研修会 岡山県うまいくだものづくり推進本部（講要）
6. ブドウ「シャインマスカット」の果房吊上げ処理及び果実袋による果房受光量の違いが果実品質に及ぼす影響 園芸学研究 20 (別 2)
7. ブドウ晩腐病に対するマンゼブ剤及びフルジオキソニル剤を用いた体系防除の有効性 日本植物病理学会報（講要）
8. 岡山県のもも・ブドウで発生する主な病害について 令和 3 年度果樹共済（ぶどう）損害評価研修会（配布資料）

[野菜部門]

1. ナス促成栽培における少日射時の炭酸ガス施用が果実収量および品質に及ぼす影響 園芸学研究 21 (別 1)（講要）
2. 業務・加工用キャベツの夏作栽培における株間が結球重、結球揃い及び収量に及ぼす影響 2021 年度園芸学会中四国支部研究発表要旨（講要）
3. カリ過剰がホウレンソウのシュウ酸含量と「えぐみ」に与える影響 土づくり推進シンポジウム
4. 岡山県における促成栽培イチゴで発生するナミハダニ黄緑型に対する殺ダニ剤の効果 関西病虫害研究会報
5. 岡山県における土着天敵タバコカスミカメに対する農薬の影響 関西病虫害研究会報
6. 岡山県におけるトマト灰色かび病菌の各種薬剤に対する感受性 日本植物病理学会報（講要）
7. 岡山県における多剤耐性トマト灰色かび病菌に対する有効薬剤の選抜 日本植物病理学会報（講要）
8. ハダニ対策について考える ～イチゴの事例から～西優輔 令和 3 年度 I P M 研究会（講要）
9. 促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する新たな天敵を組み合わせた総合防除体系の確立 O P U フォーラム 2021（講要）

[共通部門]

1. 音声入力を利用した圃場における農作物生育障害発生様式の把握 日本植物病理学会報（講要）
2. 岡山県における農作物生育障害診断による対策の指導が障害の発生経過に及ぼす効果 日本植物病理学会報（講要）

令和 4 年度（計 3 1 件）

[水田作部門]

1. 岡山県のブランド米「アケボノ」の安定多収生産技術の確立とリモートセンシング技術を活用した追肥技術 日本作物学会中国支部研究集録 59 : 4-5（講要）
2. 岡山県における水稻硫黄欠乏症の診断基準の策定 2022 年度日本土壌肥料学会講演要旨集 68 : 77

(講要)

[畑・転換畑作部門]

1. 岡山県における小麦品種「ふくほのか」の後期重点型施肥栽培（予報） 日本作物学会中国支部研究集録 59：16-17（講要）
2. 黒大豆「丹波黒」のマルチ栽培における GNSS ガイダンスを用いた畦立てマルチ敷設は乗用管理機による畦間雑草の防除を容易にする 日本作物学会第 255 回講演会要旨集：70（講要）

[果樹部門]

1. 岡山県モモ主要品種における音響振動を利用した収穫適期予測技術の開発 園芸学研究 22（別 1）：84（講要）
2. 岡山県におけるモモ・ブドウの新品種育成について 令和 4 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議果樹研究会（講要）
3. ピオーネ及びオーロラブラックの高品質栽培技術について 令和 4 年度岡山県うまいくだもの推進大会（講要）
4. 「シャインマスカット」の早期出荷に適した栽培技術と今後の課題 ふくいブドウの栽培技術向上研修会（講要）
5. ‘シャインマスカット’の樹上果粒硬度の日中変動 園芸学研究 22（別 1）：74（講要）
6. 音響振動法によるブドウ‘シャインマスカット’の果粒軟化期の把握 園芸学研究 22（別 1）：75（講要）
7. 鮮度保持資材を用いた長期冷蔵がブドウ「シャインマスカット」の味、食感、香りに及ぼす影響 日本食品科学工学会第 69 回大会講演集：113（講要）
8. モモの急性枯死症が発生する圃場の特徴-土壌実態調査から- 令和 4 年度落葉果樹研究会資料：36-40（講要）
9. モモ圃場周辺に自生する雑草へのモモ胴枯細菌病菌（急性枯死症）*Dickeya dadantii* の病原性及び検出状況 日植病報 88：201（講要）
10. モモ胴枯細菌病（急性枯死症）に関する岡山県の取り組み 令和 4 年度果樹病害研究会：40（講要）
11. モモ胴枯細菌病（急性枯死症）に関する岡山県の取り組み 令和 4 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 病虫害推進部会 問題別研究会 病害分科会：21（講要）
12. 簡易被覆栽培におけるブドウ晩腐病菌の飛散消長 日本植物病理学会報 88：232（講要）
13. 岡山県のブドウで発生する主な病虫害について 令和 4 年度果樹共済（ぶどう）損害評価現地研修会（配布資料）
14. ブドウ晩腐病に対するイプフルフェノキン剤を用いた体系防除の有効性 令和 4 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 病虫害推進部会 問題別研究会 病害分科会：19（講要）
15. 岡山県におけるブドウ主要病害の薬剤耐性菌の発生とその防除対策 第 32 回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム（講要）
16. 岡山県における果樹の難防除病害との戦い（ブドウ白紋羽病を例として） 令和 4 年度果樹病害研究会（講要）
17. 岡山県における果樹病害との戦い（モモ黒斑病を事例として） 第 53 回岡山病理セミナー（講演要旨）

[野菜部門]

1. 炭酸ガス施用条件下での換気方法がナス‘千両’の促成栽培における収量および品質に及ぼす影響

園芸学研究 22 (別 1) : 184 (講要)

2. 岡山県中北部における夏秋雨除けトマト栽培で秋期の増収に有利な穂木・台木の組合せ、並びに摘花房処理の適期 園芸学研究 22 (別 1) : 120 (講要)
3. 岡山県におけるイチゴ炭疽病菌のアゾキシストロビン剤及びピリベンカルブ剤に対する感受性 日本植物病理学会報 88 : 228 (講要)
4. 岡山県におけるアスパラガス褐斑病の QoI 剤に対する感受性 令和 4 年度中国四国ブロック病害虫防除所職員等研修会 (講要)
5. 促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する新たな天敵を組み合わせた総合防除体系の確立 OPU フォーラム 2022 (講要)

[花き部門]

1. スイートピー落蕾性の品種間差と継代の様相 園芸学会中四国支部研究発表要旨 60 : 25 (講要)
2. リンドウの挿し穂冷蔵が挿し芽苗の発根および生育に及ぼす影響 園芸学会中四国支部研究発表要旨 60 : 26 (講要)

[共通部門]

1. 大学生活と現在の仕事について 令和 4 年度岡山大学農学部キャリアサポート説明会 (講要)
2. 大学院進学のおすすめ～卒業から 15 年経って想うこと～ 岡山大学農学部 OB・OG 講演会 (講要)
3. シンポジウム「緑の食料システム戦略の時代に土づくりをどう伝えるか」若手指導者による土づくり指導の実態と悩み 2022 年度日本土壌肥料学会講演要旨集 68 : 147 (講要)

令和２年度（計２１件、対応職員数 延べ７９名）

No	対応月日	研究会名等	主催	対応内容	発表の有無	対応職員数
1	4月16日	白皇の栽培研修会	JA晴れの国岡山東モモ部会	園地視察と栽培技術説明	有	3
2	7月6日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	4
3	7月13日	果研ナシ部会	果研	研究会への出席と助言	無	1
4	8月25日	果研モモ部会	果研	研究会への出席と助言	無	6
5	9月4日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	2
6	9月15日	果研ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	7
7	9月17日	果研ナシ部会	果研	研究会への出席と助言	無	3
8	11月6日	果研ナシ部会	果研	研究会への出席と助言	無	1
9	11月18日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	1
10	12月14日	果研ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	2
11	12月3日	果研モモ部会	果研	研究会への出席と助言	無	3
12	12月16日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	3
13	3月25日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	2
14	3月24日	果研ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	5
15	8月4日	岡山県ブランドいちご研究会(第1回)	県農産課、全農岡山園芸部	講演	有	3
16	7月31日	岡山県うまいくだものづくりブドウ共進会	岡山県うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	無	7
17	9月3日	岡山県うまいくだものづくりブドウ共進会	岡山県うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	無	7
18	10月15日	岡山県うまいくだものづくりブドウ共進会	岡山県うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と審査	無	7
19	11月11日	岡山県ブランドいちご研究会(第2回)	県農産課、全農岡山園芸部	研究会への出席と助言	無	3
20	12月11日	スイートピー栽培研修会	岡山県花き生産協会	研修会への出席と講演	有	4
21	1月14日	花き共進会	岡山県花き生産協会	共進会への出席と審査	無	5

令和3年度（計46件、対応職員数 延べ133名）

No	対応月日	研究会名等	主催	対応内容	発表の有無	対応職員数
1	4月22日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	6
2	4月23日	アスパラガス雨よけ実証担当者会議	普及推進課	研究会への出席と助言	無	3
3	4月30日	果樹研究会モモ部会	果研	研究会への出席と助言	有	7
4	5月6日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	4
5	7月13日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	6
6	7月13日	岡山白桃の安定生産のための対策技術の検討、現地検討会	普及推進課	検討会への出席と助言	有	2
7	7月15日	花き共進会	岡山県花き生産協会	共進会への出席と審査	無	4
8	7月15日	令和3年度植調中間成績検討会	植調協会	研究会への出席と助言	有	1
9	7月20日	井笠地域稲作ネット研修会	井笠農業普及指導センター	講演	有	1
10	7月21日	モモ共進会	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と助言	有	3
11	7月28日	新見市花卉共進会	新見市	共進会への出席と審査	無	2
12	8月2日	モモ共進会	うまいくだものづくり推進本部	共進会への出席と助言	有	3
13	8月10日	ブランドいちご研究会	農産課	講演と助言	有	1
14	8月10日	白皇査定会	JA晴れの国岡山 岡山東モモ部会	検討会への出席と助言	有	2
15	8月11日	アスパラガス雨よけ実証担当者会議	普及推進課	研究会への出席と助言	無	2
16	8月13日	山陽地区白皇持ち寄り検討会	JA晴れの国岡山 岡山東モモ部会	検討会への出席と助言	有	2
17	8月24日	桃の生産安定技術研修会	うまいくだものづくり推進本部	講演	有	2
18	9月28日	リンドウ新植・改植品種講習会	備北広域農業普及センター	講演	有	2
19	9月29日	令和3年度農業効果確認（除草剤関係）成績検討会	岡山県植物防疫協会	研究会への出席と助言	無	2
20	11月4日	ブランドいちご研究会	農産課	研究会への出席と助言	無	3
21	11月4日	果樹研究会ナン部会	果研	研究会への出席と助言	有	2
22	11月10日	アスパラガス雨よけハウス研修会	おかやま元気ベジタブル推進会議	研究会への出席と助言	有	3
23	11月15日	アスパラガス雨よけ実証担当者会議	普及推進課	研究会への出席と助言	無	2
24	11月18日	モモ推進大会	うまいくだものづくり推進本部	推進大会への出席と助言	無	7
25	11月25日	全農園芸専門部施設ナス部会単位結果性品種研修会	農産課	講演	有	4
26	11月30日	果樹普及員高度化研修	普及推進課	講演	有	3
27	12月2日	音響振動装置事業化可能性調査第1回WS会議	中四国アグリテック	検討会への出席と助言	有	2
28	12月3日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	4
29	12月8日	普及指導員（2年目）経営研修	普及推進課	講演	有	1
30	12月9日	果樹研究会モモ部会	果研	研究会への出席と助言	有	6
31	12月9日	令和3年度植調中間成績検討会	植調協会	研究会への出席と助言	有	1
32	12月10日	ブランドいちご研究会	農産課	研究会への出席と助言	無	1
33	12月14日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	3
34	12月15日	スマート農業実証プロジェクト現地見学会	笠岡スマート農業コンソーシアム	研究会への出席と助言	無	2
35	12月16日	キャベツ生産・販売反省会	JA晴れの国岡山 藤山キャベツ部会	反省会への出席と講演	有	1
36	1月5日	岡山白桃の安定生産のための対策技術の検討、実績検討会	普及推進課	検討会への出席と助言	有	2
37	1月11日	音響振動装置事業化可能性調査第2回WS会議	中四国アグリテック	検討会への出席と助言	有	2
38	1月17日	令和3年度水田農業の力強い経営体育成講座	農産課	研究会への出席と助言	有	1
39	1月25日	PGR Asia コンソーシアム 推進会議	PGR Asia コンソーシアム	研究会への出席と助言	無	3
40	1月25日	白皇情報交換会	普及推進課	情報交換会への出席と助言	有	2
41	1月25日	モモ「白皇」に関する情報交換会	普及推進課	情報交換会への出席と助言	有	2
42	1月27日	ブドウ苗木技術検討会	岡山県果樹苗木生産販売組合	検討会への出席と助言	有	3
43	1月28日	令和3年度リンドウ栽培研修会	岡山県花き生産協会	講演	有	4
44	2月4日	作物普及員高度化研修	普及推進課	研究会への出席と助言	有	4
45	3月24日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	4
46	3月29日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	有	4

令和４年度（計５２件、対応職員数 延べ１７６名）

No	対応月日	研究会名等	主催	対応内容	発表の有無	対応職員数
1	4月14日	令和4年度種バレイショ防除補助員講習会	神戸植物防疫所	研究会への出席と助言	無	2
2	4月19日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	3
3	4月28日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	6
4	5月17日	果樹研究会モモ部会	果研	研究会への出席と助言	無	5
5	5月27日	専門技術高度化研修(花き)	普及推進課	講演	有	1
6	6月16日	「シャインマスカット」栽培研修会	うまいくだもの作り推進本部	研究会への出席と助言	有	5
7	7月12日	岡山県稲わら等有効利用促進連携推進会議	環境文化部環境管理課	研究会への出席と発表	有	5
8	7月21日	JA晴れの国岡山リンドウ共進会	JA晴れの国岡山リンドウ生産協議会	共進会への出席と審査	無	2
9	7月25日	果樹研究会温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	3
10	7月27日	水田転換畑における排水対策技術研修会	農産課	研究会への出席と助言	有	5
11	7月29日	技術カタログに関する中四国地域産地向けセミナー	中四国農政局	講演	有	1
12	8月3日	園芸専門部 施設なす部会 委員会	連合会岡山県支部	研究会への出席と発表	有	1
13	8月9日	勝英大型稲作研究会	勝英農業普及指導センター	研究会への出席と発表	有	1
14	8月18日	晩生モモ栽培研修会	うまいくだもの作り推進本部	研究会への出席と助言	有	6
15	8月24日	岡山市農業協同組合TAC担当者会議	JA岡山	研究会への出席と発表	有	1
16	8月29日	岡山県種苗供給協議会担当者会議	農産課	協議会への参加と助言	無	2
17	8月30日	果樹研究会モモ部会	果研	研究会への出席と助言	無	5
18	9月16日	スマート農業に関する先進事例視察会及び情報・意見交換会	中国地域スマート農業ラボ	研究会への出席と助言	有	1
20	9月12日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	7
21	9月2日	いちご担当者会議	普及推進課	講演と検鏡指導	有	3
22	9月13日	新見市花き共進会	JA晴れの国岡山	共進会への出席と審査	無	2
23	9月27日	園芸専門部 施設なす部会 委員会	連合会	研究会への出席と助言	有	1
24	10月3日	高梁市農業振興センター 現地指導	備北広域農業普及指導センター	現地への指導と助言	無	1
25	10月5日	リンドウ栽培研修会	岡山県花き生産協会	研究会への出席と助言	無	2
26	10月12日	スイートピー栽培研修会	岡山県花き生産協会	研究会への出席と助言	有	1
27	11月1日	第2回岡山県ブランドイチゴ研究会	農産課	研究会への出席と助言	無	3
28	11月9日	農林水産DXセミナー	普及連携部 産学連携推進課	セミナーへの出席	無	1
29	11月24日	果研温室ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	2
30	12月6日	果樹研究会ブドウ部会	果研	研究会への出席と助言	無	5
31	12月8日	施設イチゴの栽培技術の向上とICT利用(Web)	中四国アグリテック	セミナーへの出席	無	3
32	12月3日	果樹研究会モモ部会	果研	研究会への出席と助言	無	6
33	12月8日	晴れイチゴ目揃会	農産課	会への指導と助言	無	1
34	12月26日	令和4年普及指導活動調査研究会	普及推進課	会への指導と助言	無	22
35	1月10日	岡山県種苗供給協議会担当者会議	農産課	協議会への参加と助言	無	4
36	1月26日	ナス単為結果品種の販売対策会議	大阪事務所	会への参加と助言	無	1
37	1月16日	被覆肥料対策会議	農産課	出席及び試験結果発表	有	4
38	1月17日	病害虫部会推進会議	農研機構、西日本農業研究センター	出席、検討事項発表	有	1
39	1月23日	作物生産部会推進会議	農研機構、西日本農業研究センター	出席	無	4
40	1月26日	土壌肥料部会推進会議	農研機構、西日本農業研究センター	出席、検討事項発表	有	1
41	1月26日	果樹部会推進会議	農研機構、西日本農業研究センター	出席、検討事項発表	有	1
42	1月27日	土壌肥料部会問題別研究会	農研機構、西日本農業研究センター	出席	無	2
43	1月30日	果樹茶業研究会・全体会議	農研機構	出席	無	13
44	2月1日	果樹茶業研究会・落葉果樹	農研機構	出席、検討事項発表	有	13
45	1月17日	園芸専門部 施設ナス部会 研修会	連合会岡山県支部	研究会への出席と発表	有	1
46	2月2日	いちご担当者会議	普及推進課	講演と検鏡指導	有	3
47	1月25日	推進会議営農部会	農研機構、西日本農業研究センター	出席	無	3
48	1月31日	農業技術革新連携フォーラム	農研機構	出席、話題提供	有	1
49	3月10日	作物生産推進部会問題別研究会(育種栽培検討会)	農研機構、西日本農業研究センター	出席	無	4
50	5月27日	野菜高度化研修	普及推進課	出席、話題提供	有	1
51	1月20日	令和4年度水田農業の力強い経営体育成講座	農産課	出席、話題提供	有	1
52	2月13日	井笠普及指導センター主催研修(加工業務用野菜排水対策)	井笠農業普及指導センター	講師	有	1

受賞・表彰

外部受賞・表彰

年度	受賞・表彰名	内容
令和2年	全国農業関係試験研究場所長会 令和2年度研究功労者表彰	夏秋小ギクの高需要期連続出荷技術の開発
令和3年	日本土壌肥料学会第10回技術奨励賞	水田における家畜ふん堆肥施用時期を考慮した施肥設計技術の確立
	園芸学会令和4年度春季大会優秀発表賞	緑枝接ぎ法によるブドウ苗木の育成技術の開発
令和4年	土壌医の会 全国協議会会長賞	水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策フローチャートの作成

職員表彰

年度	受賞・表彰名	内容
令和2年	知事表彰	岡山ナンバーワン野菜「千両なす」の危機を救った天敵利用害虫防除技術の開発
令和3年	農林水産部長表彰	県産果実・野菜のおいしさの見える化技術開発グループ
令和4年	農林水産部長表彰	農作物生育障害診断アシストシステム開発グループ

農業研究所における共同研究実施課題

資料12

R5年5月1日現在

No	研究課題名	事業名等	研究期間	担当研究室グループ等	共同研究機関
1	主要農作物品種試験 (共同研究課題名: 水稻品種「アケボノ」への病害虫抵抗性付与を目的としたDNAマーカー育種)	農業研究所研究費	S28～継 (R元～R2)	作物・経営研究室	農研機構次世代作物開発研究センター
2	極良食味水稻「きぬむすめ」のスマート農業による安定生産技術の確立	農業研究所研究費	R3～5	作物・経営研究室	東京農工大学、京都大学
3	極良食味水稻「きぬむすめ」のスマート農業による安定生産技術の確立	農業研究所研究費	R3～5	作物・経営研究室	コニカミノルタ株式会社
4	良質苗木の安定生産技術の開発 (ブドウ)	農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究(現場ニーズ対応型プロジェクト)【大課題】果樹等の幼木期における安定生産技術の開発	R2～R6	果樹研究室	農研機構果樹茶業研、福岡県、長野県
5	急性枯死症状の発生要因の解明と対策技術の開発 (モモ)	農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究(現場ニーズ対応型プロジェクト)【大課題】果樹等の幼木期における安定生産技術の開発	R2～R6	果樹研究室 病虫研究室 環境研究室	農研機構果樹茶業研、東京農大、岩手県、福島県、愛知県、佐賀県
6	果樹栽培の省力・高品質安定生産を可能にするスマート栽培管理支援システムの開発	令和3年度補正予算 戦略的スマート農業技術等の開発・改良「スマート農業技術の開発・改良」	R4～R6	果樹研究室 高冷地研究室	普及連携部 岡山大学
7	DXを活用した水田転換園における果樹の省力・安定栽培技術の開発	農業研究所研究費	R5～R7	果樹研究室 環境研究室	東京大学、福島大学
8	温暖化に適応する着色の優れる黒色ブドウ新品種の選抜技術の開発	DX技術開発事業	R4～R6	果樹研究室	生物科学研究所
9	モモのPan-genomeの構築とその利用による主要形質の制御遺伝子の特定	令和4年度 科研費基盤研究(A)	R4～R8	果樹研究室 生物科学研究所	京都大学、岡山大学、福島大学、京都府立大学、農業研究所果樹研究室
10	モモ育種の新しいフェーズを拓く新技術開発	農総セ連携事業促進費	R5～R7	果樹研究室	生物科学研究所
11	植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進	農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究	R3～7	野菜・花研究室	農研機構野菜花き研究部門ほか
12	野菜育成系統評価試験	指定試験受託事業	H28～	野菜・花研究室	農研機構野菜花き研究部門
13	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	生産環境総合対策事業	R3～14	環境研究室	農研機構農業環境変動研究センターほか
14	水稻作における硫黄の過不足に対する土壌管理技術の確立	全農肥料受託試験	R4～R5	環境研究室	全農
15	水稻晩生品種における被覆肥料の被膜殻排出低減を目的とした施肥体系の確立	全農肥料受託試験	R4～R5	環境研究室	全農
16	ペースト2段施肥技術による水稻の全量基肥施肥体系の実証	全農肥料受託試験	R5～R6	環境研究室	全農

農業研究所における共同研究実施課題

資料12

R5年5月1日現在

No	研究課題名	事業名等	研究期間	担当研究室 グループ等	共同研究機関
17	AIを活用した栽培管理システム	全農農薬委託試験	R4	作物・経営研究室 環境研究室	全農

視察受入状況

令和2年度（計30件、延べ471名）

No	受入月日	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	4月16日	岡山東農協モモ部会	50	「白皇」、「白露」の栽培管理	果樹
2	6月26日	津高温室ブドウ経営者クラブ	14	加温「シャインマスカット」の房作り	果樹
3	6月29日	温室農協マルトウ分区	13	温室ブドウの栽培管理及び房づくり	果樹
4	7月2日	三徳園社会人農研修野菜コース研修生他	27	野菜に係る試験研究について	野菜・花
5	7月6日	三徳園長期就農研修生他	3	いちごに係る試験研究について	野菜・花
6	7月6日	果樹研究会温室ぶどう部会	35	加温「シャインマスカット」、ジバングの栽培管理	果樹
7	7月13日	果樹研究会なし部会	9	ナシの栽培管理	果樹
8	7月20日	JA晴れの国岡山まにわぶどう部会勝山支部	12	ブドウの栽培管理や果房管理、施肥	高冷地
9	7月30日	JA晴れの国岡山まにわぶどう部会久世支部	7	新梢管理法、着果管理法のポイント等	果樹
10	7月30日	真庭地方農業士会・真庭農企業者クラブ会員	19	ブドウの新梢管理、霜害対策、トマトのかん水等	高冷地
11	8月6日	倉敷地域ぶどう初心者研修会受講者	16	ブドウの房づくりや新梢、着果、施肥管理等	果樹
12	8月6日	倉敷地域ぶどう初心者研修会視察	16	「ピオーネ」、「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
13	8月18日	農林水産委員会県内調査	20	モモの低樹高栽培	所長、副所長
14	8月25日	果樹研究会もも部会	20	「白皇」、「白露」の栽培管理	果樹
15	8月28日	津高温室ブドウ経営者クラブ	16	「シャインマスカット」の房作り	果樹
16	9月3日	船穂町ぶどう部会青壮年部	9	「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
17	9月3日	博報堂	10	ブドウ、モモの園地視察	果樹
18	9月9日	晩生モモの研修・検討会	50	「白皇」、「白露」の栽培管理	果樹
19	9月15日	西粟倉村・森の学校いちご事業部他	2	農林水産総合センターにおけるUECSの導入状況について	野菜・花
20	9月15日	果樹研究会ぶどう部会	45	「ピオーネ」、「シャイン」、「オーロラ」の栽培管理	果樹
21	9月25日	JA岡山悦桃部会 桃・ぶどう視察	8	農研育成モモ品種の栽培、加温シャインの房づくり	果樹
22	9月30日	真庭地域事務所幹部会	4	高冷地研究室ブドウ栽培試験	高冷地
23	10月13日	JA晴れの国岡山まにわぶどう部会	20	オーロラブラックの栽培管理	高冷地
24	10月16日	福岡県農林水産総合試験場	1	果樹苗木生産について	果樹
25	10月29日	愛知県農業総合試験場	1	ブドウの着色向上について	果樹
26	11月11日	岡山県産業振興財団	2	農業研究所の業務について	副所長
27	11月16日	富山県新川農林振興センター	1	小ギク試験研究について	野菜・花
28	3月12日	くらしき東ぶどう部会	14	加温「シャインマスカット」の栽培技術	果樹
29	3月23日	津高温室ぶどう経営者クラブ	15	加温「シャインマスカット」の栽培技術	果樹
30	3月29日	岡山東山陽ぶどう部会	12	加温「シャインマスカット」の栽培技術	果樹

令和3年度（計23件、延べ415名）

No	受入月日	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	4月16日	岡山東農協モモ部会	80	「白皇」の栽培研修	果樹
2	4月19日	長期就農研修(野菜コース)	6	イチゴに係る試験研究について	野菜・花
3	4月28日	岡山地域ぶどう初心者講座受講者	37	加温栽培「シャインマスカット」の視察	果樹
4	4月28日	岡山県立井原高等学校園芸課	44	高冷地研究室での研究内容について	高冷地
5	6月24日	津高温室ぶどう経営者クラブ会員	12	加温栽培「シャインマスカット」の視察	果樹
6	7月27日	JA晴れの国岡山まにわぶどう部会	18	「オーロラブラック」、「シャインマスカット」の視察	高冷地
7	7月30日	若手ブドウ栽培者(井笠)	6	主要品種及び「マスカットジバング」の視察	果樹
8	8月11日	三徳園長期就農研修(野菜コース)に係る視察研修	7	イチゴ栽培試験の取り組み	野菜・花
9	10月1日	美作県民局管内のりんどう生産者及び関係者	15	高冷地研究室のりんどう研究の取組状況	高冷地
10	10月7日	イチゴ担当者会議	23	イチゴ栽培試験の取り組み	野菜・花、病虫
11	11月9日	岡山地域ブドウ新規就農者	36	青年農業者対象のぶどう病害虫研修	病虫
12	11月10日	美作県民局若手職員視察研修	18	若手県職員による職場視察	高冷地
13	11月16日	社会人農研修(野菜コース)に係る視察研修	22	野菜に係る試験内容	野菜・花
14	12月17日	井笠地域礎会	10	ブドウの長期制度保持試験について	環境
15	12月24日	美作地域レンゲ稲作生産者	5	レンゲ稲作の試験内容について	環境
16	11月30日	果樹普及指導員	15	果樹普及指導員高度化研修	果樹
17	11月16日	和歌山県果樹試験場かき・もも研究所	1	モモの試験研究	果樹
18	1月25日	岡山市農業協同組合藤田、興除施設茄子部会	16	単為結果性品種ナスの視察	野菜・花
19	3月10日	くらしき東ぶどう部会	11	シャインマスカットの花穂整形	果樹
20	3月23日	山口県農林操業技術センター 農業試験場	2	花き試験研究の取り組み	野菜花
21	3月25日	総社市福井新田ナス部会視察	7	ナス栽培試験の取り組み	野菜花
22	3月25日	津高温室ブドウ経営者クラブ	12	加温「シャインマスカット」の栽培技術	果樹
23	3月28日	岡山東山陽ぶどう部会	12	加温「シャインマスカット」の栽培技術	果樹

令和4年度（計34件、延べ706名）

	受入月日	視察団体	人数	視察内容	対応研究室
1	4月13日	東備地域ブドウ若手生産者	27	加温栽培「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
2	4月13日	マスカット研究会スマイル	11	加温栽培「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
3	4月25日	シキミ苗木生産者	2	シキミ試験圃場視察	野菜・花
4	4月28日	藤田・興除ナス生産者視察	5	単為結果性ナスの栽培状況	野菜・花
5	4月26日	岡山地域ぶどう初心者講座（新規就農者）	35	施設ブドウ（主に「シャインマスカット」）の栽培管理	果樹
6	5月6日	岡山東農協モモ部会	80	「白皇」の栽培管理	果樹
7	5月26日	丸草出荷組合生産者視察	26	「シャインマスカット」の花穂整形、房づくり	果樹
8	6月14日	岡山大学農学部1回生	69	農業研究所の紹介	副所長、果樹、野菜・花
9	6月16日	シャインマスカット栽培研修会	50	「シャインマスカット」の房形矯正、ホルモン処理	果樹
10	6月20日	船穂町ぶどう部会青壮年部	18	「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
11	6月21日	岡山大学農学部1回生	69	農業研究所の紹介	副所長、果樹、野菜・花
12	6月22日	津高温室ぶどう経営者クラブ	12	「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
13	7月11日	石相小学校5年生	13	農業研究所の施設見学	作物・経営
14	7月21日	まにわぶどう部会落合支部	15	ブドウ主要品種の栽培管理	果樹
15	8月18日	晩生モモ栽培研修会	40	「白皇」の果実袋、栽培管理	果樹・病虫
16	8月23日	高松農業高校果樹専攻	15	果樹研究室の概要、モモ、ブドウの栽培	果樹
17	8月30日	美作ぶどう部会	17	「ビオーネ」、「シャインマスカット」の栽培管理	果樹
18	9月1日	備前化成	2	農研研究内容と施設の視察	副所長、野菜・花
19	10月13日	農研機構農業技術研修生	4	研究所の概要、圃場視察	果樹
20	10月14日	備前県民局幹部職員	5	農業研究所の業務概要について	農研、果樹、野菜花
21	10月25日	備前県民局幹若手職員他	16	農業研究所の業務概要について	農研、果樹、野菜花
22	10月27日	マスカット研究会スマイル	10	「紫苑」、「シャインマスカット」の栽培管理について	果樹
23	11月15日	社会人就農研修及び新規就農者に係る視察研修	21	野菜に関する試験研究について	野菜花
24	11月16日	四万十市農業委員会	17	農業研究所の業務概要について	農研、果樹、野菜花
25	11月17日	岡山県におけるスイートピー産地の視察	10	岡山県における花きに関する試験研究の取り組み	野菜花
26	11月29日	久米南町新農業経営者クラブ	11	ブドウ、モモの土作方法について	果樹
27	12月7日	美作県民局管内若手職員	20	高冷地研究室の業務概要について	高冷地
28	1月6日	赤磐市モモ生産者	7	果樹園の造成について	果樹、環境
29	1月19日	井原市新農業経営者クラブ新樹会会員	11	「シャインマスカット」の栽培について	果樹
30	1月17日	連合会施設ナス部会員	22	単為結果性ナスの栽培管理について	野菜・花
31	2月14日	JA備南施設茄子青壮年部	12	施設ナスの栽培管理について	野菜・花
32	2月14日	シキミ苗木生産者	3	シキミ試験圃場視察	野菜・花
33	3月10日	くらしき東ぶどう部会	16	「シャインマスカット」の栽培について	果樹
34	3月28日	津高温室ブドウ経営者クラブ	15	「シャインマスカット」の栽培について	果樹

令和2年度

No	タイトル	取材	報道・掲載日	掲載メディア
1	新品種「白皇」栽培技術学ぶ JA晴れの国岡山岡山県モモ部会	無	4月23日	日本農業新聞
2	モモせん孔細菌病 県全域に注意報 防除徹底呼び掛け	有	4月23日	山陽新聞
3	モモせん孔細菌病で注意報 岡山県内全域	無	4月24日	日本農業新聞
4	果樹カメムシ類県全域に注意報 県、6年ぶり	有	5月14日	山陽新聞
5	果樹カメムシ類県全域に注意報	無	5月14日	山陽放送ラジオ
6	果樹カメムシ類岡山県が注意報	無	5月15日	日本農業新聞
7	リンドウ苗出荷 岡山県農業開発研 3品種、7地区へ	無	5月23日	日本農業新聞
8	営農技術情報 花き種子の発芽促進 3区分で試験 無覆土がお薦め	無	5月23日	日本農業新聞
9	果樹カメムシ類	有	6月9日	山陽放送
10	営農技術情報 夏秋トマトの灰色かび病 薬剤耐性菌対策	無	6月13日	日本農業新聞
11	カメムシ大発生	有	6月25日	朝日新聞
12	営農技術情報 ブドウ、アスパラに新技術	無	6月27日	日本農業新聞
13	トビイロウンカ2年連続注意報 県早期駆除訴え	有	7月10日	山陽新聞
14	トビイロウンカ注意報発表	無	7月9日	山陽放送ラジオ
15	営農技術情報 混合堆肥複合肥料	無	7月11日	日本農業新聞
16	リンドウ新品種育成	有	7月16日	山陽新聞
17	極早生新品種リンドウ育成(山陽新聞と同じ記事)	有	7月25日	中国新聞
18	営農技術情報 高冷地研究室の紹介	無	7月25日	日本農業新聞
19	イネいもち病県内に注意報	有	7月30日	山陽新聞
20	岡山県注意報 葉いもち発生 平年の2倍超	無	7月31日	日本農業新聞
21	期待の桃新品種「白皇」出荷は8月中・下旬 出荷切れ目なし実現(JAでの取組)	無	8月8日	日本農業新聞
22	営農技術情報 オリジナルラクスパー育成2品種を紹介 開花・花色そろい上々(普及推進課執筆)	無	8月8日	日本農業新聞
23	トビイロウンカ警報 33年ぶり県全域に発令	有	8月20日	山陽新聞
24	トビイロウンカ警報発表について	有	8月20日	NHK
25	堆肥入り肥料 共同開発 岡山県農業研など	有	8月20日	山陽新聞
26	ウンカで警報 平年の10倍超 岡山県病害虫防除所	無	8月21日	日本農業新聞
27	トビイロウンカ警報発表について	有	8月28日	山陽放送
28	第二回うまいくだもの共進会(シャイン・アレキ共進会)	有	9月4日	山陽新聞(東備版)
29	トビイロウンカ 坪枯れ「異例の発生」 追加防除徹底を	無	9月10日	日本農業新聞
30	トビイロウンカ警報発表について	有	9月10日	瀬戸内海放送
31	白小豆の花 風に揺れ(備中夢白小豆)	無	9月15日	山陽新聞(夕刊)
32	県育成エダマメ初陣 「岡山SYB1号」高い収益性に期待	無	9月23日	日本農業新聞
33	エダマメ用黒大豆新品種デビュー 出荷期間拡大へ 勝英地域	無	9月26日	日本農業新聞
34	オーロラブラック着色不良予防 薬剤処理1回が適切	有	10月1日	山陽新聞
35	営農技術情報 リンドウ極早生導入 出荷期間拡大を実現	無	10月10日	日本農業新聞
36	イネの害虫大量発生 トビイロウンカ 県南部の田んぼ	有	10月9日	読売新聞
37	「オーロラブラック」産地化へ研修 JA晴れの国岡山まにわぶどう部会	無	10月17日	日本農業新聞
38	コメ農家厳しい秋 岡山県内収量減、価格低下(トビイロウンカ坪枯れ、コロナ禍外食低迷)	有	10月20日	山陽新聞
39	営農技術情報 桃栽培での高所作業車導入効果 安全で作業時間も減	無	10月24日	日本農業新聞
40	産地拡大に向け研修会 県オリジナル品種・オーロラブラック	無	10月29日	真庭タイムズ
41	キャベツハクサイ向け堆肥入り全量基肥用肥料開発	有	11月20日	全国農業新聞
42	営農技術情報 期待の新品種「備中夢白小豆」色均一で大粒、多収	無	11月28日	日本農業新聞
43	菓子に「備中夢白小豆」玉野市雑穀生産組合提供	無	11月28日	日本農業新聞
44	効率的な施肥でコスト削減 堆肥と窒素単肥を併用し実現 飼料用トウモロコシ二期作栽培	有	12月11日	全国農業新聞
45	営農技術情報 白桃新品種「白皇®」「白露®」を推進(普及推進課執筆)	無	1月23日	日本農業新聞
46	アスパラガス露地栽培 トンネル被覆で収穫量増	有	2月18日	山陽新聞

☐ は、試験研究主要成果を中心に「営農技術情報」として農研が執筆

令和3年度

No	タ イ ト ル	取材	報道・掲載日	掲載メディア
1	晩生「白皇」増産へ一丸	無	4月24日	日本農業新聞
2	黄ニラの栽培の歴史について	有	5月13日	NHK
3	黒大豆のマルチ栽培 乾燥時はかん水しっかり	無	6月26日	日本農業新聞
4	硫黄被覆肥料の効果は 岡山県農業研 環境保全へ実証試験	有	6月17日	山陽新聞
5	ビール大麦収穫適期、桃若木期収量増へ	無	7月10日	日本農業新聞
6	北部向け ブドウ品種ごと高品質技術/トマト秋期増収へ品種選定	無	7月24日	日本農業新聞
7	イネいもち病県内に注意報 2年連続	有	8月19日	山陽新聞
8	イネいもち病県内に注意報	無	8月19日	山陽放送
9	いもち病適期防除を 岡山県が注意報	無	8月21日	日本農業新聞
10	袋開かず桃の熟期判定	有	8月24日	山陽新聞
11	岡山でトビイロウンカ	無	8月27日	日本農業新聞
12	加工・業務用キャベツ大玉にするには 株間は40センチに広げて	無	8月28日	日本農業新聞
13	トビイロウンカ注意	有	9月3日	山陽新聞
14	黒大豆枝豆MA包装効果 主要食味成分の減少抑制	無	9月11日	日本農業新聞
15	シャインマスカット長期保存へ実証試験	有	10月21日	山陽新聞
16	マルチと機能性果実袋で果肉障害抑制	無	10月23日	日本農業新聞
17	スイートピー落蕾減に選抜採種有効	無	11月13日	日本農業新聞
18	Y字仕立てで10アール収1.5倍	無	12月10日	日本農業新聞
19	カリ過剰施肥で強まるえぐ味 ホウレンソウ栽培で確認	有	1月6日	日本農業新聞
20	カリウムの過剰で食味低下	無	1月26日	農業共済新聞
21	スイートピー産地振興に力	有	2月17日	山陽新聞

 は、試験研究主要成果を中心に「営農技術情報」として農研が執筆

令和4年度

No	タ イ ト ル	取材	報道・掲載日	掲載メディア
1	ブドウ苗木の安定生産に適した育成方法の開発			
2	中山間地域農業の維持・発展に向けた経営関連マニュアル・ツールの作成	無	6月11日	日本農業新聞
3	夏秋雨除けトマト栽培の秋期増収技術	無	6月25日	日本農業新聞
4	果樹カメムシ類県全域に注意報 県、2年ぶり	有	7月2日	山陽新聞
5	果樹カメムシ類岡山県で注意報 防除徹底を	無	7月3日	日本農業新聞
6	農業研究所が新技術を発信	無	7月9日	日本農業新聞
7	ももの果肉障害を低減	有	7月15日	全国農業新聞
8	サツマイモ基腐病確認 岡山で特殊報	無	7月16日	日本農業新聞
9	営農技術情報 高冷地研究室の紹介	無	7月23日	日本農業新聞
10	トマトキバガ初確認 岡山県特殊報	無	7月26日	日本農業新聞
11	(斑点米)カメムシ類大量発生? 5年ぶり注意報	無	8月2日	NHK
12	カメムシ類注意報 5年ぶり「斑点米」懸念	無	8月3日	日本農業新聞
13	斑点米カメムシ水稻で多発警戒	無	8月4日	日本農業新聞
14	「晴莓」の早期安定生産	無	8月13日	日本農業新聞
15	硫黄欠乏症の対策 石膏などの資材を散布	無	9月10日	日本農業新聞
16	イチゴを12月上旬から収穫するための栽培管理	無	8月13日	日本農業新聞
17	夏秋雨除けトマト秋期収量増加	有	9月15日	開拓情報
18	岡山の大学へ行こう	有	9月18日	山陽新聞
19	トビイロウンカ2年ぶり注意報 県中南部	有	9月22日	山陽新聞
20	トビイロウンカ注意報	有	9月23日	RSK 山陽放送
21	トビイロウンカ水稻で注意報	無	9月23日	日本農業新聞
22	岡山黒大豆 甘味1.4倍	有	10月6日	山陽新聞
23	ブドウのコナカイガラムシの防除について	無	11月26日	日本農業新聞
24	硫黄欠乏で診断基準	有	12月14日	日本農業新聞
25	水稻の硫黄欠乏 石こう資材使用	有	12月9日	山陽新聞
26	ヒノヒカリ追肥要否判定、ドローンセンシング	有	2月2日	日本農業新聞

 は、試験研究主要成果を中心に「営農技術情報」として農研が執筆

資料 15

農業研究所ホームページ

(ホームページアドレス：<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/235/>)



ようこそ晴れの国 おかやまへ

岡山県
Okayama Prefecture

本文へ Other Languages 文字サイズ変更 元に戻す 大きくする 文字色変更／音声読み上げ

サイト内検索 Google 提供 検索 ページ番号検索 検索

総合案内 分野でさがす 組織でさがす カレンダーでさがす

現在地 トップページ > 組織でさがす > 農林水産総合センター > 農業研究所

定めた 農業研究所

農業研究所



主な業務内容

岡山県農林水産総合センター農業研究所では、生産者や消費者のニーズを踏まえ、高品質で作りやすい県独自品種の育成や一層の高品質化、省エネ、省力・低コスト化、環境負荷軽減や温暖化に対応した新技術の開発を行っています。

- 作物・経営研究室
作物の育種、栽培技術開発、奨励品種選定、原種ほ事業、農業経営の調査研究
- 果樹研究室
果樹の育種、栽培技術開発
- 野菜・花研究室
野菜及び花の育種、栽培技術開発
- 環境研究室
農業生産基盤（土壌保全、土壌肥料、植物生理）及び農業環境保全に関わる技術開発、
- 病虫害研究室
農作物病虫害の診断、病害虫防除技術開発、病害虫発生予察事業
- 高冷地研究室
高冷地における主要果樹、野菜、花きの育種及び栽培技術開発

新着情報

農林水産総合センター農業研究所研究報告第13号を掲載しました（2023年4月21日更新）

令和3年度に開発した新技術（2022年8月22日更新）

農業研究所ホームページで「令和3年度試験研究主要成果」を公開しました。（2022年6月27日更新）

令和3年度業務報告書（年報）を掲載しました（2022年5月26日更新）

令和2年度に開発した新技術を掲載しました（2021年7月20日更新）

新着情報のRSS ▶

連絡先

代表電話
本所：
〒709-0801 岡山県赤松市神田沖1174-1
高冷地研究室：
〒717-0603 岡山県真庭市蒜山東茅部1188
Tel：086-955-0271
Fax：086-955-1914（本所）
0867-66-3115（高冷地研究室）
お問い合わせはこちらから

見出し

下記目次をクリックすると、該当の見出しへジャンプします。

▶ 農研トピックス

▶ 視察・研修会の報告

▶ 研究室の紹介

▶ 岡山県が育成した新品種

▶ 主な新技術の紹介

▶ 試験研究主要成果

▶ 研究報告

▶ 業務報告

▶ ジーンバンク事業

農研トピックス

- 【栽培管理紹介】令和5年6月15日 イチゴの採苗を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年6月15日 ブランド米「きぬむすめ」の種子（原種）生産を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年6月14日 高冷地研究室でキャベツの定植を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年6月14日 モモ「はなよめ」の収穫が始まりました
- 【栽培管理紹介】令和5年6月1日 簡易被覆栽培の「オーロラブラック」の房づくりを行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年5月27日 簡易被覆栽培ブドウの満開期のホルモン処理を始めました
- 令和5年5月27日 農業研究所が育成したエダマメ専用黒大豆「岡山SYB 1号」について日本農業新聞で紹介されました
- 【試験紹介】令和5年5月25日 「清水白桃」が硬核期に入りました
- 【お知らせ】令和5年5月24日 新配置職員等の官能評価研修を実施しました
- 【栽培管理紹介】令和5年5月23日 1月下旬加温栽培の「シャインマスカット」に傘掛けを行いました
- 【試験紹介】令和5年5月25日 ビール大麦「サチホゴールド」の原種（種子）を収穫しました
- 【試験紹介】令和5年5月23日 水稲用肥料の被膜殻流出低減対策試験に取り組んでいます
- 【栽培管理紹介】令和5年5月22日 高冷地研究室でトマトを定植しました
- 【栽培管理紹介】令和5年5月19日 簡易被覆栽培のブドウの花穂整形を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年5月12日 モモの摘果作業を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年5月16日 モモの袋掛けを開始しました
- 【栽培管理紹介】令和5年5月10日 簡易被覆栽培の「シャインマスカット」及び「オーロラブラック」のストレプトマイシン処理を行いました
- 【栽培管理紹介】令和5年4月26日 1月下旬加温の「シャインマスカット」の玉直しを行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年4月28日 加温栽培の「シャインマスカット」、無加温栽培の「ピオーネ」及び「オーロラブラック」の房づくりを行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年4月21日 ブドウの3月加温ハウス及び無加温ハウス栽培において満開期のホルモン処理を始めました
- 【栽培管理紹介】令和5年4月13日 1月下旬加温の「シャインマスカット」の摘房を行っています
- 【栽培管理紹介】令和5年4月13日 ブドウの3月加温栽培及び無加温栽培の花穂整形を実施しています
- 【栽培管理紹介】令和5年4月10日 簡易被覆栽培の「ピオーネ」が発芽しました
- 【季節の写真】令和5年4月1日、4日 簡易被覆栽培のブドウの発芽が始まりました
- 【栽培管理紹介】令和5年3月31日 1月下旬加温の「シャインマスカット」の肥大処理を始めました

作物・経営研究室
Tel：086-955-0275

果樹研究室
Tel：086-955-0276

野菜・花研究室
Tel：086-955-0277

環境研究室
Tel：086-955-0532

病虫研究室
Tel：086-955-0543

高冷地研究室
Tel：0867-66-2043



関連情報

関連情報

- ▶ 沿革と組織
- ▶ 施設とその配置
- ▶ 本所へのアクセス
- ▶ 高冷地研究室へのアクセス

- 【栽培管理紹介】令和5年3月30日 コナカイガラムシ類対策のためにブドウ（簡易被覆）の発芽前防除を実施しました
- 【季節の写真】令和5年3月30日 「清水白桃」が満開になりました
- 【栽培技術紹介・動画】新規防寒資材の巻き付け方法について
- 【試験紹介】県産果実のおいしさの見える化PR資料及び素材集を作成しました
- 【栽培技術紹介・動画】モモの果肉障害の抑制を目的としたマルチの敷設方法
- 農研トピックス過去情報の一覧（タイトルのみ）

視察・研修会の報告

- 令和5年6月14日 びほくトマト部会川上支部の会員がトマト視察に来所
- 令和5年6月12日 玉島北園芸協会ぶどう部会がブドウ視察に来所
- 令和5年6月12日 ぶどう高品質栽培研修会
- 令和5年6月2日 佐伯ぶどう部会の会員がブドウ視察に来所
- 令和5年6月1日 井笠地域いちご研究会の会員がイチゴ視察に来所
- 令和5年5月25日 笠岡市シャインマスカット研究会の会員がブドウ視察に来所
- 令和5年5月17日 単為結果性ナス品種検討会（検討会中盤にナス圃場視察）
- 令和5年5月16日 びほく桃部会の生産者がモモ視察に来所
- 令和5年4月26日 岡山地域ぶどう初心者講座の実務研修生がブドウ視察に来所
- 令和5年4月24日 施設ナス担当者会議（会議後にナス圃場視察）
- 令和5年4月17日 「白皇」栽培研修会
- 令和5年4月12日 東備地域ぶどう若手生産者がブドウ視察に来所
- 令和5年3月28日 「津高温室ぶどう経営者クラブ」会員がブドウ視察に来所
- 過去情報の一覧（タイトルのみ）

研究室の紹介

- 作物・経営研究室
- 果樹研究室
- 野菜・花研究室
- 環境研究室
- 病虫研究室
- 高冷地研究室

岡山県が育成した新品種

- 育成品種一覧と現在登録のある品種・商標の紹介
- 育成品種の利用許諾について

主な新技術の紹介

- 令和３年度に開発した新技術
- 令和２年度に開発した新技術
- 令和元年度に開発した新技術
- 平成３０年度に開発した新技術
- 平成２９年度に開発した新技術
- 平成２８年度に開発した新技術
- 平成２７年度に開発した新技術
- 平成２６年度に開発した新技術
- 平成２５年度に開発した新技術
- 平成２４年度に開発した新技術

試験研究主要成果

- 令和３年度試験研究主要成果
- 令和２年度試験研究主要成果
- 令和元年度試験研究主要成果
- 平成３０年度試験研究主要成果
- 平成２９年度試験研究主要成果
- 平成２８年度試験研究主要成果
- 平成２７年度試験研究主要成果
- 平成２６年度試験研究主要成果
- 平成２５年度試験研究主要成果
- 平成２４年度試験研究主要成果
- 平成２３年度試験研究主要成果
- 平成２２年度試験研究主要成果

- 平成21年度試験研究主要成果
- 平成20年度以前の試験研究主要成果

研究報告

- 岡山県農林水産総合センター農業研究所研究報告（2010年～）
- 岡山県農業総合センター農業試験場研究報告（1999～2009年）
- 岡山県立農業試験場研究報告（1981～1998年）

業務報告

- 業務報告書（年報）

ジーンバンク事業

- ジーンバンク事業に関すること

▶ このホームページについて（サイトポリシー） ▶ RSSについて ▶ バナー広告掲載について ▶ SNS一覧ページ ▶ サイトマップ